

保存用

大学研究ノート

第41号(1979年12月)

## 大学の国際交流に関する文献目録

「大学の国際化」研究プロジェクト

広島大学  
大学教育研究センター

## ま え が き

広島大学・大学教育研究センターでは、その共同研究事業の一環として、昭和53年度より55年度までの3か年計画で、「大学の国際化に関する総合的研究」(研究代表者・喜多村和之/研究分担者14名)を実施している。この研究は、①日本の大学の教育・研究上の国際交流活動を活発化ならしめ或いは阻害している要因や条件を解明するとともに、②日本の大学教育に直接かかわっている外国人教員及び外国人留学生を調査の対象として、かれらの日本の大学観や生活意識の分析を通じて、日本の大学教育の評価や国際的開放度を究明することを目的としている。

この文献目録は、以上に挙げた目的を追究する過程で収集・探索した文献・資料類を、とりあえず整理したものである。もとより重要な文献であっても洩れているものが少なくないとも考えられるが、いたずらに目録の完ぺき性を求めているのは、いつの時点で刊行できるか心許ないので、とりあえず現在の時点で発表することにした。大学の国際化や学術・教育・文化の国際交流に関心をもつ方々の多少のお役に立てるならば望外の幸せである。

この文献目録の作成にあたっては、資料の収集・整理について大学教育研究センターの馬越徹助教授、大塚豊助手、さらに木上尊子・江森早穂の両ライブラリアンの絶大な協力を仰いだ。しかし文献の選定、分類、整理等、編集の責任は喜多村にある。

なお、「大学の国際化」プロジェクトに関わるものとしては、これまでつぎに示す文献を刊行してきた。

- ① 「大学の国際化——第6回研究員集会の記録」『大学研究ノート』第32号、1978年8月
- ② 「諸外国の大学における国際交流——とくにアメリカ合衆国を中心として」  
(喜多村和之・天野郁夫・湯浅信之)『大学研究ノート』第33号、1978年10月

この文献目録はこの「大学の国際化」シリーズの第3番目にあたるものであり、以後に刊行予定の、

- ④ 「日本の大学における外国人教員——全国調査結果の概要」(『大学研究ノート』近刊)
- ⑤ 「日本の大学の国際交流活動に関する資料集」(『大学研究ノート』近刊)

などととも参考にしていただければ幸いである。

さいごになったが、この文献目録の作成にあたって御協力を賜った大学や国際交流関係機関等の関係者の方々に厚く御礼申し上げたい。

なお、本資料集は、これまでの関連資料と同様、文部省科学研究費補助金による研究成果の一部である。

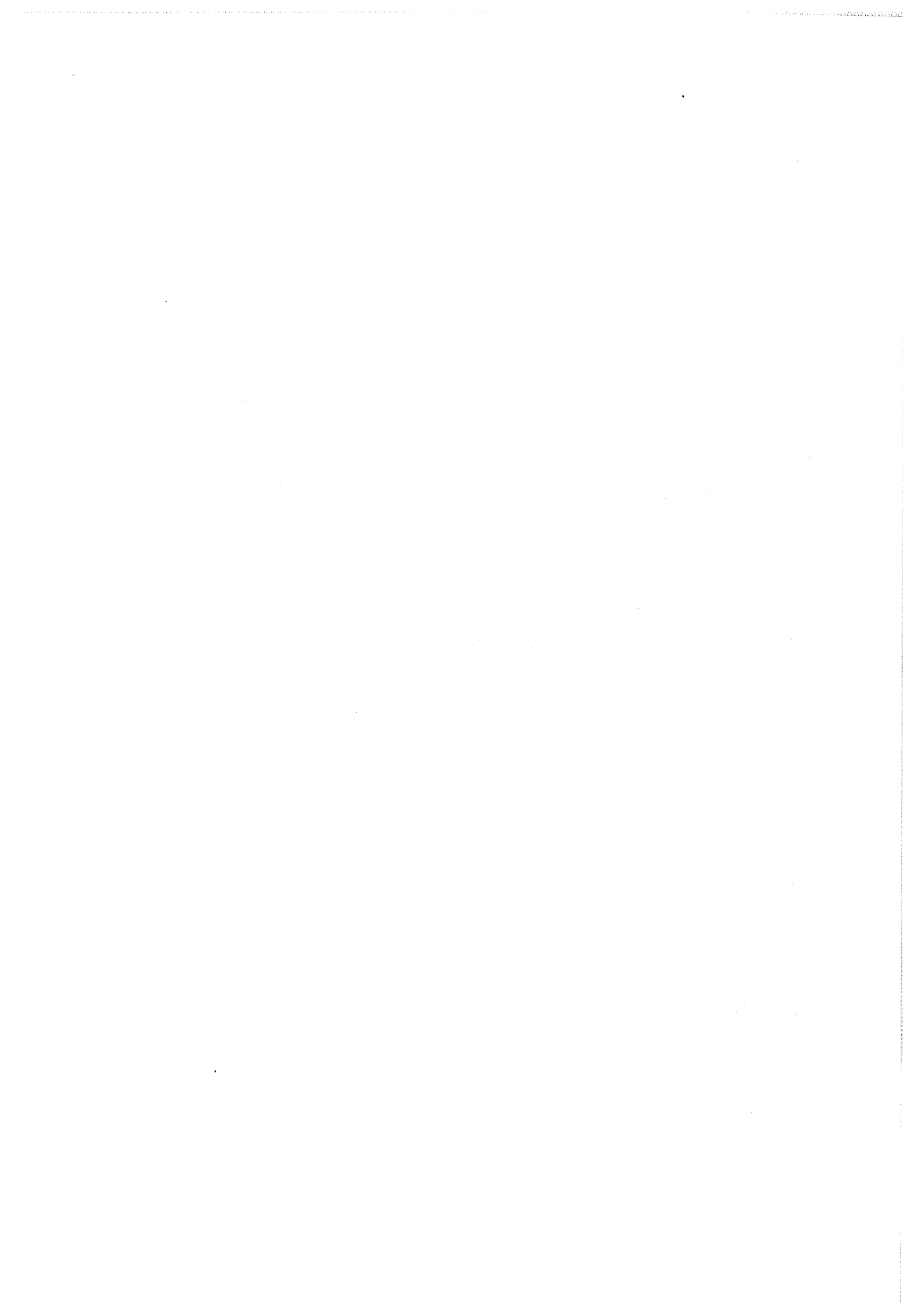
1979年10月

編者 喜多村 和 之



# 目 次

まえがき	1
I 国際交流	5
1. 国際化／国際性	5
2. 国際交流一般	7
3. 特定地域との国際交流	8
4. 学術・教育・文化の国際交流	12
5. 大学の国際交流	14
6. 研究者の国際交流	16
7. 外国人教員	16
8. 教育の国際交流	18
9. インターナショナル・バカロレア	19
10. 学生の国際交流	19
11. 国際大学／国際学園都市	20
12. 国連大学	20
13. 個別大学	22
14. 国際交流機関・団体（日本）	24
15. 国際交流機関・団体（外国）	26
II 留 学	27
1. 留学一般	27
2. 留学の歴史	27
3. 留学生一般	30
4. 留学生の受け入れ	32
5. アジア人留学生／アジア人の日本留学	35
6. 日本語教育	38
7. 海外事情	39



# 国際交流

## 国際化 / 国際性

- 前田 陽一 「大学の国際性」『日本の大学』（東京大学公開講座12），東京大学出版会，1968，pp. 63～92。
- Nagai, Michio “Westernization and Japanization: The Early Meiji Transformation of Education”, Shively, D.H. (ed), *Tradition and Modernization in Japanese Culture*, Princeton University Press, Princeton, 1971, pp. 35-76.
- 武者小路公秀 「大学の国際性」大学問題コロキウム編『大学の原点』，理想社，1972，pp. 157～180。
- 鯖田 豊之 『世界のなかの日本—国際化時代の課題』，研究社（研究社叢書），1972（再版），275p.
- 石附 実 『国際化への教育』，ミネルヴァ書房，1974，197p.
- 加藤 周一 『雑種文化—日本の小さな希望』，講談社（講談社文庫），1976，250p.
- 国弘 正雄 『異文化に橋を架ける—国際化時代の語学教育』，ELEC出版部（エレクト選書），1976，207p.
- 矢野 暢 『新洋行学のすすめ』，PHP研究所，1976，244p.
- 日本人研究会編 『日本人研究No.5—特集・日本人の対外国態度』，至誠堂，1977，214p.  
〔内容〕なぜ対外国態度を問題にするか（穂山貞登），pp. 5～14。アジアに向く顔と欧米に向く顔（児玉好信・井上桂朗・天沼常明），pp. 15～44。日本人の国際結婚許容度（柴田博），pp. 45～80。日本人の外国評価とその特徴（堀洋道），pp. 81～130。日本人と「フィリピン人」の義理人情比較（児玉好信・井上佳朗），pp. 131～156。日本人は「対外国」を自覚する必要がある（穂山貞登・岡山慶子），pp. 157～190。日本人の対外国文化態度と対外国人態度（林知己夫），pp. 191～198。  
付1：「国際環境に関する基礎的研究」およびその他の国際的態度の研究，pp. 203～205。付2：パタン分類とPOSA，pp. 206～210。付3：参考文献，pp. 211～214。
- 永井 道雄 「教育の国際化」『永井道雄の教育の流れを変えよう』，朝日新聞社，1978，pp. 215～250。  
〔内容〕報告，新しい世界史を造る人間の育成を。
- 森 隆夫 「第1章 教育の国際化の歴史と現状」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』（第1部 教育の国際化と日本の教育），協同出版，1978，pp. 14～29。
- 岩下新太郎 「第2章 日本の教育の特質—国際化の観点から」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』（第1部 教育の国際化と日本の教育），協同出版，1978，pp. 30～59。
- 木田 宏 「第3章 教育の国際化と行政施策」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』（第1部 教育の国際化と日本の教育），協同出版，1978，pp. 60～99。
- 小泉 喜平 「第4章 教育の国際交流」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』（第2部 教育国際化の諸側面），協同出版，1978，pp. 102～121。

- 永井 滋郎 「第5章 国際理解と愛国心教育」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』(第Ⅱ部 教育国際化の諸側面), 協同出版, 1978, pp. 122~139。
- 小林 哲也 「第6章 学校の国際化」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』(第Ⅱ部 教育国際化の諸側面), 協同出版, 1978, pp. 140~158。
- 新井 郁男 「第7章 教師の国際化」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』(第Ⅱ部 教育国際化の諸側面), 協同出版, 1978, pp. 159~176。
- 喜多村和之 「第8章 大学の国際化」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』(第Ⅱ部 教育国際化の諸側面), 協同出版, 1978, pp. 177~198。
- 大塚 喬靖 「第9章 国際機関と教育行政」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』(第Ⅱ部 教育国際化の諸側面), 協同出版, 1978, pp. 199~227。
- 大塚 喬靖 「第10章 国際機関の条約・勅告(抄)と解説」『講座教育行政6 教育の国際化と教育行政』(第Ⅱ部 教育国際化の諸側面), 協同出版, 1978, pp. 228~246。
- Kobayashi, Tetsuya "The Internationalization of Japanese Higher Education" *Changes in the Japanese University*, edited by Cummings, Amano, Kitamura, 1979, Praeger, pp. 166-184.



- 生江 義男 「教育課程審議への課題」『私学研修』72〔'76.9〕
- 永井 道雄 「大学は国家を超える」『諸君』1-6〔'69.12〕pp. 109~117。
- 犬田 章 「日本における教育と国際化の問題」『国際金融』546〔'75.6.1〕pp. 13~19。
- 山本 登 「国際化と私立大学の役割-国際化の促進のために」『大学時報』128〔'76.5〕pp. 30~34。
- ケーリ, オーテス 「国際化と私立大学の役割-外国人教員の立場から」『大学時報』128〔'76.5〕pp. 35~39。
- 小林 哲也 「高等教育の国際化」『IDE』173〔'76.10-11〕pp. 39~44。
- 佐藤 国雄 「国際化を強られる我が国の学術研究体制」『学術月報』378〔'77.3〕pp. 30~31。
- 加藤 一郎 「大学の国際化-特集・大学と社会」『大学基準協会会報』34〔'77.9〕pp. 147~160。
- 原田 三郎 「教育における国際性-直言ノート」『季刊教育法』26〔'77.冬季号〕pp. 114~119。
- 永井 道雄 「新しい世界史を造る人間の育成めざして-永井道雄の教育の流れを考えよう」『朝日ジャーナル』〔'77.12.9〕pp. 31~35。
- 村井 資長 「国際化社会と日本の大学」『大学時報』138〔'78.1〕pp. 8~12。
- 中川秀恭, 飯島宗一, クローカ, E・C, 天城勲 「大学の国際化-その方向と問題点」(新春シンポジウム)『IDE』186〔'78.1-2〕pp. 4~16。
- 永井 道雄 「日本の近代化と大学の国際化」『大学研究ノート』32〔'78.8〕pp. 1~16。
- 喜多村和之 「大学の国際化に関する諸問題」『大学研究ノート』32〔'78.8〕pp. 17~24。
- 天野 郁夫 「大学の国際化と日本化-東京帝国大学を中心に-」『大学研究ノート』32〔'78.8〕pp. 25~32。
- 天城 勲 「学問の国際性と交流-今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 2~5。

## 国 際 交 流 一 般

- ドロー, ルイ, 三保元訳 『国際文化交流』白水社(文庫クセジュ), 1965, 160 p.
- 梅棹 忠夫 『文明の生態史観』, 中央公論社(中公叢書), 1967, 258 p.
- 経済企画庁 「国際交流の高度化と1970年代の課題」『昭和46年版社会教育行政の現状』, 教育行政資料調査会, 1971, pp. 416~474。
- 日本経済調査協議会 「人的協力」『経済協力推進の方途』, 1971, pp. 313~343。
- 海外派遣制度研究会編 『海外派遣・留学・視察総覧』, 帝国地方行政学会, 1972。
- 中根 千枝 『適応の条件-日本的連続の思考』, 講談社, 1972, 181 p.
- 外務省文化事業部編 『国際文化交流の現状と展望(1972)』, 大蔵省印刷局, 1973, 460 p.
- The Central Council on Education *Promotion of International Educational, Scientific and Cultural Exchange* (Submitted to the Minister of Education May 27, 1974.) Ministry of Education, Japan, 1974, 18p.
- 梅棹 忠夫 『地球時代の日本人』, 中央公論社, 1974, 287 p.
- 科学技術庁編 『国際交流の動向』(昭和50年版科学技術白書), 大蔵省印刷局, 1975, pp. 317~336。
- 永井 道雄 『人類への一里塚-文化交流と教育改革』, 日本放送出版協会, 1976, 252 p.
- 江崎玲於奈, 広中平祐 『日本を語る』, 毎日新聞社, 1977, 195 p.
- フィッシャー, G. H. 国弘正雄, 川瀬勝訳 『異文化を越えて-国民外交と行動科学』, ELEC出版部, 1977, 284 p.
- 柴田 俊治 『日本人と国際人-私たちにとって日本とはなにか-』, ダイヤモンド社, 1978, 205 p.
- 『国際情報事典』(別冊 The English Journal), アルク, 1979. 8., 300 p.
- 
- バトラ, ケネス・D, 梅棹忠夫, ピタウ, ジョゼフ(司会)天城勲 「国際交流の新しい動向(座談会)」『文部時報』1148〔'73. 1〕pp. 9~30。
- Hirakawa, Sukehiro "Difficulties in Cross-Cultural Communication" *The Wheel Extended* 4-3, 1974, pp. 13-20.
- Umesao, Tadao "Escape from Cultural Isolation" *The Wheel Extended* 4-3, 1974, pp. 4-11.
- 田中 宏 「国連大学(その前に-国際交流とは何か)」『世界』340〔'74. 3〕pp. 247~252。
- 小松 左京 「文化接触の形-世界史の経験をふりかえる」『国際交流』3〔'74. 9 秋季号〕pp. 21~37。
- 中根 千枝 「文化交流の動向-インター・ナショナルからインター・カルチュラルへ」『国際交流』3〔'74. 9 秋季号〕pp. 13~20。
- 桑原 武夫 「文化政策を見直す(巻頭インタビュー)」『国際交流』3〔'74. 9 秋季号〕pp. 2~12。
- 永井 道雄 「文化交流と人間の意識-体験的文化交流論」『国際交流』4〔'75. 1 冬季号〕
- 丸山 真男 「他者との出会い(巻頭インタビュー)」『国際交流』8〔'76. 2 冬季号〕pp. 2~13。
- 牛尾治朗ほか 「文化交流を展望する-国際交流基金への提言」『国際交流』9〔'76. 4 春季号〕



- pp. 52～59。
- 大森増一、草柳大蔵ほか 「ビジネスとクロス・カルチャー—企業の海外進出の文化的側面（座談会）」『国際交流』11〔'76.10 秋季号〕pp. 50～57。
- 飛鳥井雅道 「『開化』における西洋—見えるものと見えないもの」『国際交流』12〔'77.2 冬季号〕pp. 13～23。
- 山本 七平 「文化の受容と変容—キリスト教と日本教の足跡をたどりながら」『国際交流』13〔'77.4 春季号〕pp. 13～32。
- 「学術振興と国際協力推進の二本柱」（文部省の五十三年度予算要求⑧—学術国際局 解説）『内外教育』2895〔'77.10.18〕pp. 13～16。
- 川端 未人 「異文化間コミュニケーションと自我形成の研究」『神戸大学教育学部研究集録』60〔'78.9〕pp. 1～10。
- 大家 重夫 「文化の超輸入国日本」『文部時報』1218〔1978.11〕pp. 33～39。
- 小山田 隆 「国際交流はお題目ではない（特集／文化のかけ橋）」『望星』10—6〔'79.6〕pp. 30～32。
- 「国際コミュニケーション」『現代のエスプリ』145〔'79.8〕。
- 〔内容〕 金山宣夫：概説，国際コミュニケーション，pp. 5～22。 梅棹忠夫：二一世紀の人類像，pp. 23～28。 斧泰彦：キャンペーン—特派員リレーエッセイ・シンガポール，pp. 29～34。 勝部真長：昭和威臨丸訪米記，pp. 35～40。 松濤弘道：ソ連式・人の死にかた，pp. 41～47。 高木俊朗：有田市のコレラに思う，pp. 48～50。 解説：状況—相違のなかで，pp. 51～52。 角田忠信：左の脳と日本語—直観の鈍った現代人，pp. 53～64。 金両基：能面の日本人，pp. 65～78。 松原久子：日本女性ヨーロッパに淪落す，pp. 79～88。 田中豊：手は口ほどに…—特派員リレーエッセイ・ローマ，pp. 89～94。 解説：自己表現—その文化的背景，pp. 95～96。 石原慎太郎：日本の海外経済活動の誤り，pp. 97～100。 鈴木健二：人脈ゼロの交渉力をもて，pp. 101～105。 森本忠夫：モスクワ—ピョニャン—国際セールスの旅から，pp. 106～115。 岡田英弘：日台空路はこうして切れた—北京も望まなかった日台空路断絶，pp. 116～127。 解説：交渉—その態度と方法，pp. 128～129。 栗田房穂：国際ビジネスマンの条件，pp. 130～137。 河崎一郎：海外駐在員妻たちの恐るべき私生活，pp. 138～145。 青年海外協力隊：ネグリート論争，pp. 146～149。 R・E・ダイク：米国エリート・ビジネスマン街道，pp. 150～155。 松田瑞穂：1ドル半の牛どん経営，pp. 156～164。 解説：日本の特性—プラスかマイナスか，pp. 165～166。 ヨハン・T・ビュッヒナー：日本人が改めてつき当る言語の壁，pp. 167～170。 外山滋比古：日本語国際化の条件，pp. 171～185。 永井道雄：新しい世界史を造る人間の育成めざして，pp. 186～193。 竹内実：理解と友好，pp. 194～205。 桑原武夫：甘くない国際理解を，pp. 206～209。 解説：課題—相互理解のために，pp. 210～211。

### 特定地域との国際交流

武者小路公秀監修 アジア青年連絡会議編 『太った日本人—集められたアジア321人の肉声』ダイヤモンド社，1971，388p.

東南アジア文化使節団 『東南アジアとの文化交流をどう進めるか』(報告書), 外務省文化事業部, 1971, 29 p.

田中宏訳編 『日本を見つめるアジア人の眼』, 田畑書店, 1972, 270 p.

鮎田 豊之 『文明の条件—日本とヨーロッパ』, 講談社(現代新書), 1972, 201 p.

さねとうけいしゅう 『日中非友好の歴史』, 朝日新聞社, 1973, 422 p.

日独協会編 『日独文化交流の史実』(再建20周年記念), 日独協会, 1974, 184 p.

矢野 暢 『「南進」の系譜』, 中央公論社(中公新書), 1975, 220 p.

趙 靖 「中日文化交流の歴史的回顧」京都大学人文科学研究所編『学問に架ける橋—北京大学社会科学友好代表団講演集』, 小学館, 1976, pp. 19~32。

田中宏編著 『アジア人との出会い—国際交流とは何か』, 田畑書店, 1976, 274 p.

国際交流基金 『東南アジアとの対話—文化交流をめぐって』, 1977, 303 p.

〔内容〕 サイフー, パタヤ, 石井米雄:「東南アジア諸国と日本との文化交流に関する国際シンポジウム」討論要旨。

I 文化交流の現状と評価。アブドゥラ, タッフイク:インドネシアと日本の文化交流。チー, チャン・ヘン:シンガポールと日本の文化交流。オスマン, M・タイプ・ビン:マレーシアと日本の文化交流。ヤムクリンフング, プラサート:タイと日本の文化交流。パウソン, レスリー・E:フィリピンと日本の文化交流。岡津守彦:日本の文化交流。

II 文化交流をめぐらる問題。リエン・ティ, フング:文化交流の哲学。岡部達味:ナショナリズムと国際理解—文化交流の政治的意味。サイフ, パタヤ:目に見えぬ文化交流。永積昭:文化の交流か交流の文化か。十時巖周:文化交流における知識人の役割。綿貫譲治:日本と東南アジア諸国との文化交流における社会科学の役割。綾部恆雄:文化交流と留学生。高橋彰:東南アジアにおける日本留学生。鳥羽欽一郎:文化交流についての若干の提言。

III 文化交流の底辺。ロ羽益生:伝統文化の存続と変動。スブル, ブディサントサ:伝統的文化の連続と変化—西部ジャワ・カラワン地方のシブアヤ村における一事例。サレ, ムハマド・ハジ:マレー社会の伝統と連続性。パウソン, レスリー・E:スペイン人の残したフィリピンの土地制度。パウソン, レスリー・E:19世紀フィリピンの農業経済における外国の影響。

国際交流基金 『東南アジアとの文化交流—その問題点』(外国文化紹介講演会2), 1977, 35 p.

国際交流基金 『中東との対話—文化交流をめぐって』, 1977, 194 p.

〔内容〕 前嶋信次:中東地方の文化と日本人, pp. 9~14。岡部達味:「国際シンポジウム—中東諸国と日本との相互理解促進のための文化的基盤」討論要旨, pp. 15~33。

I 文化交流をめぐらる基本問題, pp. 37~109。ギュヴェンチ, ボズクルト:相互理解の文化的側面—日本とトルコの場合, pp. 38~61。中村広次郎:文化交流と宗教理解, pp. 62~76。牟田口義郎:日本と中東との文化交流, pp. 77~89。ナバヴィ, ジャムシド:知識の交流に関する諸問題, pp. 90~98。ガウシー, サードラ:発展国ならびに発展途上国における発展と文化の潮流および反潮流, pp. 99~109。

II 交流の歴史と体験, pp. 111~185。岡崎敬:考古学および東西交渉史より見た中東文明の東漸, pp. 112~119。ラシード, フェウジ:レスリングと新年の行事の関わり合いについて, pp. 120~125。小泉文夫:音楽文化における日本と中東,

pp. 126 ~ 135。大野盛雄：ある農夫の問い， pp. 136 ~ 149。小倉もとこ：文化交流と留学， pp. 150 ~ 161。前田陽一：中東と日本の文化交流—両者の対西洋関係と比較して， pp. 162 ~ 171。中岡三益：戦後日本の中東近現代史研究瞥見， pp. 172 ~ 185。

The Japan Foundation *Dialogue, Southeast Asia and Japan* (Symposium on Cultural Exchange), 1977, 279p. [Contents] Kon, Hidemi: Welcoming Address pp. 9-12. Saihoo, Patya: A Summary of Discussion of the International Symposium on Cultural Exchange between Southeast Asian Countries and Japan (ISCE) pp. 13-34.

I. Cultural Exchanges: Reports and Evaluations. 1. Abdullah, Tanfik: Cultural Exchange Programs in Indonesia: A Report pp. 38-47. 2. Chee, Chan Heng: Cultural Exchange between Japan and Singapore pp. 48-58. 3. Osman, Mohammed Taibbin: The Present State of Cultural Exchange in Malaysia: An Evaluation pp. 59-66. 4. Yamklifung, Prasert: Thailand—Japan Cultural Exchange: Past, Present and Future pp. 67-82. 5. Bauzon, Leslie E.: Country Report on the Past and Present State of Cultural Exchange in the Philippines pp. 83-93. 6. Okatsu, Morihiko: The Present State of Cultural Exchange in Japan: An Assessment pp. 94-110.

II. Problems in Cultural Exchange pp. 111-210. 1. Lien-te, Hung: Cultural Exchange in the Seventies pp. 112-120. 2. Okabe, Tatsumi: Nationalism and International Understanding: Political Implications of Cultural Exchanges pp. 121-130. 3. Saihoo, Patya: The Not-So-Visible Cultural Exchange pp. 131-141. 4. Nagazumi, Akira: Exchange of Culture or Culture of Exchange pp. 142-154. 5. Totoki, Toshichika: The Role of Intellectuals in Cultural Exchange pp. 155-159. 6. Watanuki, Joji: The Role of Social Sciences in Cultural Exchange between Japan and Southeast Asian Countries pp. 160-171. 7. Ayabe, Tsuneo: Foreign Students as an Important Channel for Cultural Exchange: with Special Reference to Japan and Southeast Asian Countries pp. 172-186. 8. Takahashi, Akira: Japanese Students in Southeast Asia: A Passage to Area Understanding pp. 187-198. 9. Toba, Kinichiro: Suggestions on Cultural Exchange between South East Asian Countries and Japan pp. 199-210.

III. Ethno-Cultural Climate pp. 211-268. 1. Kuchiba, Masuo: Continuity and Change in Traditional Cultures: On the Dynamic Aspects of Indigenous Cultures pp. 212-224. 2. Subur, Budhisantosa: Continuity and Change in Traditional Culture: The Case of Cibuaya, a Village in the Northern District of Karawang, West Java pp. 225-237. 3. Salleh, Muhammad Haji: Tradition and Continuity in Malay Society pp. 238-246. 4. Bauzon, Leslie E.: The Spanish Agrarian Legacy in the Philippines pp. 247-258. 5. Bauzon, Leslie E.: An Essay on the Foreign Impact upon the Agricultural Economy of the Philippines in the Nineteenth Century pp. 259-268.

The Japan Foundation *Dialogue, Middle East and Japan* (Symposium on Cultural Exchange), Tokyo, 1978, 183 p. [Contents] Maejima, Shinji: Middle Eastern Culture: A Heritage for Japanese. Okabe, Tatsumi: A Summary of Discussion of the Inter-

national Symposium: Cultural Base of Mutual Understanding between the Middle East and Japan.

I. Basic Problems Concerning Cultural Exchange. 1. Güvenç, Bozkurt: Cultural Aspects of Mutual Understanding between Japan and Turkey. 2. Nakamura, Kōji-rō: Toward Mutual Understanding of Religious Traditions. 3. Mutaguchi, Yoshirō: Intercultural Exchange between Japan and the Middle Eastern Countries. 4. Nabavi, Jamshid: Problems Related to the Exchange of knowledge. 5. Ghanssy, Saadollah: Currents and Counter Currents of Development and Culture in Developed and Developing Countries.

II. Individual and General Issues: A Historical Perspective. 1. Okazaki, Takashi: The Eastward Movement of Mideastern Civilization—An Archaeological and Historical Perspective. 2. Rasheed, Fawzi: Wrestling and its Connection with the New Year Festival. 3. Koizumi, Fumio: The Musical Cultures of Japan and the Middle East. 4. Ōno, Morio: What's Your Research Good for? 5. Katakura, Motoko: The Value of Student Exchange in Cross-Cultural Relations. 6. Maeda, Yoich: Japan and the Middle East: A Comparison of their Relationships with the West. 7. Nakaoka, Saneki: Postwar Japanese Research on Middle Eastern Histories.

The Japan Foundation *Coultural Exchange between Indonesia and Japan* (Japan Foundation Lecture Series 1) 24 p.

○

- マルロー, A., 高階 秀爾 「東西文化の出会い(巻頭インタビュー)」『国際交流』2〔'74.6 夏季号〕pp. 2~15。
- 竹内 実 「日本と中国の接触と交流—介在する歴史をふまえて」『国際交流』4〔'75.1 冬季号〕pp. 11~23。
- 大川 一司 「ケース・スタディとしての日本—経済近代化と発展問題」『国際交流』5〔'75.4 春季号〕pp. 11~18。
- 黒田 寿郎 「中東から日本の文化交流を考える」『国際交流』6〔'75.8 夏季号〕pp. 18~26。
- 米山 俊直 「アフリカ諸国との文化交流—ザイールとタンザニアの経験から」『国際交流』8〔'76.2 冬季号〕pp. 24~35。
- 「東南アジアと日本の文化交流—『東南アジア・シンポジウム』より—五ヶ国代表報告」『国際交流』10〔'76.7 夏季号〕pp. 40~59。
- 木村俊夫ほか 「第三世界と日本—外交政策と文化交流をめぐって(座談会)」『国際交流』10〔'76.7 夏季号〕pp. 40~48。
- 「特集・日韓両国間における教育・文化交流」『韓』59〔'76.12〕pp. 3~167。  
〔内容〕 「解放」前韓国における日本留学(阿部洋), pp. 5~73。「解放」後韓国における海外留学(馬越徹), pp. 74~97。明治日本の韓語教育と韓国への留学生派遣(具良根), pp. 98~167。
- マクドナルド, ジョン・F 「国際交流について思いつくまま(随想)」『文部時報』1196〔'77.1〕pp. 74~76。
- 吉川幸次郎 「日本と中国の交流のために(巻頭インタビュー)」『国際交流』12〔'77.2 冬季号〕pp. 2~12。

- 「中近東諸国が考える交流とは—『中近東シンポジウム』より二ヶ国代表報告」『国際交流』14〔'77.8 夏季号〕pp. 34～43。
- 松田 智雄 「国際文化交流批判—わが体験を通して」『世界』384〔'77.11〕pp. 124～135。
- 笠木 三郎 「発展途上国との学术交流—日本学術振興会の場合—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 74～84。
- 勝谷 祐一 「政策面からみた発展途上国との学术交流」『学術月報』31—8〔'78.11〕pp. 27～30。
- 日本学術振興会 「動き出した発展途上国との学术交流」『学術月報』31—8〔'78.11〕pp. 10～26。

### 学術・教育・文化の国際交流

- 日本科学史学会編 『日本科学技術史大系第3巻』（第9章国際的交流と科学者の職業的自覚），第一法規，1967，pp. 447～468。
- 文部省大臣官房統計課 「海外渡航経験者」『学術研究に関する調査報告書—昭和44年度』，文部省，1970，pp. 11，pp. 76～91。
- 科学技術会議編 『科学技術の国際交流の促進』（1970年代における科学技術政策），大蔵省印刷局，1971，pp. 58～65。
- 日本科学者会議編 「科学技術の国際交流の促進」『科学技術政策基本資料集—60年代から70年代へ—』，1971，pp. 73～81。
- 科学技術会議 「科学技術の国際交流の促進」『諮問第5号「1970年代における総合的科学技術政策の基本について」に対する答申』，1971，pp. 58～65。
- 日本学術会議編 『国際学术交流と協力』（1970年代以降の科学・技術について），大蔵省印刷局，1972，pp. 222～233。
- 日本ユネスコ国内委員会事務局 『ユネスコ世界科学情報システム（UNISIST）』（設立のための政府間会議 最終報告書），1972，93 p.
- 海外技術協力事業団 『技術協力年報1972』，1972，380 p.
- 海外技術協力事業団 『海外技術協力事業団10年の歩み』，1973，189 p.
- 海外技術協力事業団 『技術協力年報1973』，1973，333 p.
- 学術審議会 『学術振興に関する当面の基本的な施策について』（第3次答申），1973，24 p.
- 国立大学協会研究所特別委員会 『大学における研究所に関する調査報告書（昭和49年6月）』，1974，26 p.
- 蒲生正男ほか 「学術国際交流の今後のあり方（座談会）」『学術国際交流参考資料集2』，明治大学学術国際交流委員会，1974，pp. 2～32。
- 科学技術と経済の会 『ローマ・クラブ東京大会における科学技術政策立案に関連する論文集』，1974，143 p.
- 〔内容〕 1.科学技術の新しい方向・燃料およびエネルギー危機，pp. 1～6。 2.科学技術の新しい方向・成長への物理的制約，pp. 7～16。 3.自然環境の限界，pp. 17～24。 4.世界的問題への政策的研究，pp. 25～52。 5.未来への勧告，pp. 53～64。 6.資源枯渇と技術開発—マクロ・ダイナミック・モデル，pp. 65～100。 7.人間環境問題における技術的結論を求めて，pp. 101～126。 8.国際応用システム文析研究所の研究戦略，pp. 127～143。

- 科学技術と経済の会 『科学技術政策の立案に関する調査検討』, 1974, 129 p.  
 〔内容〕 第1部 東京大会までのローマ・クラブ, pp. 7～28。  
 第2部 ローマ・クラブ東京大会の概要, 第1章人口, 食糧, 天然資源, 環境問題  
 pp. 29～51。 第2章世界モデルによるプロジェクト研究, pp. 52～80。  
 第3章世界のシンク・タンク(国際機関)のプロジェクト概要, pp. 86～96。  
 第3部 これからの課題—わが国の内外政策への教訓, 第1章「成長の限界」の限  
 界, pp. 101～111。 第2章資源外交と海洋国家日本の選択, pp. 112～  
 113。 第3章省資源型社会への転換のための政策プログラム, pp. 114～  
 124。 科学技術政策への提言, pp. 125～129。
- 海外技術協力事業団 『技術協力年報1974』, 1974, 425 p.
- 日本対外文化協会 『学術文化交流語録』, 昭和49年7月, 173 p.
- 川喜田二郎 『海外協力の哲学—ヒマラヤでの実践から』, 中央公論社(新書), 1974, 234 p.
- 文部省学術国際局 『我が国の学術』, 日本学術振興会, 1975, 364 p.
- ザラースフェルド, ポールD/ナプファー, ジェネヴィーヴ 「コミュニケーション調査と国際間の  
 協力」(リントン, ラルフ編『世界危機に於ける人間科学 下巻』), 新泉社(叢書  
 名著の復興), 1975, pp. 289～334。
- 文 部 省 『教育・学術・文化における国際交流—中央教育審議会答申』(文部省広報資料82)  
 〔'75.3〕132 p.
- 権 哲信 「知的資源の国際化」『知的資源に関する研究—既存文献のまとめと今後の課題』,  
 総合研究開発機構, 1976, pp. 134～147。
- 総合研究開発機構編 『シンクタンクガイド—海外編』, 1976, 378 p.
- 学術審議会 『発展途上国との学術交流の推進について(建議)』, 1977, 15 p.
- 日本学術振興会・海外学術調査に関する総合調査研究班『海外学術調査関係研究者名簿』(昭和38～  
 50年度), 昭和53年3月, 99 p.
- 日本学術振興会 『外国関係機関との国際交流協定集』, 101 p.
- 
- 沢田 徹 「国際文化交流の現状と課題—教育・学術・文化の国際交流の問題」『文部時報』  
 1135〔'72.1〕pp. 45～48。
- 岡野 澄 「国際学術交流の現状と課題」『IDE』134〔'73.1～2〕pp. 24～28。  
 学術振興に関する基本的な施策について(学術審議会第3次答申)『学術月報』26巻増刊号Ⅲ  
 〔'74.1〕114 p.
- 向坊 隆 「自然科学の交流めぐって」『国際交流』2〔'74.6 夏季号〕pp. 16～20。
- 斎藤 真 「文化の国際交流について—中教審答申を読んで—」『学校経営』19—8  
 〔'74.7〕pp. 5～12。
- 小平邦彦, 伊藤俊太郎 「学術交流の周辺—数字の世界をめぐって(巻頭インタビュー)」『国際  
 交流』5〔'75.4 春季号〕pp. 2～10。
- 大塚 喬清 「国際交流の推進—教育・学術・文化の交流の拡大」『文部時報』1175〔'75.4〕  
 pp. 42～49。
- 加藤 秀俊 「情報流の設計のために」『国際交流』9〔'76.4 春季号〕pp. 14～22。
- 大塚 喬清 「国際協力の推進—教育・学術・文化の分野の協力の拡大(昭和51年度文教行政の  
 展望)」『文部時報』1187〔'76.4〕pp. 38～46。
- 日本学術振興会編 「科学技術の国際協力—我が国における科学研究(特集)」『学術月報』374  
 Vol. 29—増刊号Ⅲ〔'76.11〕pp. 68～73。

- 石塚俊二郎ほか 「海外報道の現実と限界—日本の新聞は日本人の対外理解を深めているか(座談会)」『国際交流』12〔'77.2 冬季号〕pp. 46～54。
- 山崎 敏光 「中間子科学の振興のために—国内施設と国際交流」『学術月報』378〔'77.3〕pp. 32～38。
- 笠木 三郎 「学術の国際交流管見(巻頭言)」『学術月報』378〔'77.3〕pp. 3～31。  
〔特集〕東南アジア諸国との新しい学術交流 『学術月報』31—3〔'78.6〕  
〔巻頭言〕 発展途上国との学術交流(井内慶次郎), pp. 5。  
Ⅰ 熱帯諸国との新しい学術交流(杉二郎), pp. 6～7。  
Ⅱ 人文科学における東南アジアとの学術交流—歴史学を事例として—(石井米雄), pp. 8～11。  
Ⅲ 社会科学とアジア研究(衛藤審吉), pp. 12～16。  
Ⅳ 南アジア・東南アジア諸国との文化交流—主として文化人類学等の調査・研究の立場から—(原忠彦), pp. 17～20。  
Ⅴ 農学交流における私の経験(田中明), pp. 21～24。  
Ⅵ 工学における発展途上国との交流(水科篤郎), pp. 25～28。  
Ⅶ 医学の分野における学術交流(田中寛), pp. 29～32。  
Ⅷ アジアにおける応用微生物学の国際交流(田中久治), pp. 33～37。  
Ⅸ 拠点大学としての東京農業大学(金木良三), pp. 38～39。
- 今堀 宏三 「学術交流—その歴史・現状と問題点—」『大学研究ノート』32〔'78.8〕pp. 55～64。
- 遠山 敦子 「大学国際化と学術行政」『大学研究ノート』32〔'78.8〕pp. 33～40。
- 山本 正 「研究者交流の新しい流れ—内外の研究・交流機関の実態から—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 70～74。
- 杉 二郎 「学術交流での学位: Ph. D. —発展途上国からの研究者を迎えるに当たって」『学術月報』31—8〔'78.11〕pp. 64～66。
- 天城 勲 「発展途上国との学術交流」『学術月報』31—8〔'78.11〕pp. 5～6。
- Swasdivakorn, Chumpol 「日本との学術交流を始めるに当たって Scientific Cooperation between The Japan Society for the Promotion of Science and The National Research Council of Thailand)『学術月報』31—8〔Nov. '78〕pp. 36—37。

## 大 学 の 国 際 交 流

- 大学のセミナーハウス 『わが国の大学における国際交流の諸問題』(第9回大学教員懇談会記録), 1974.3。
- 国立大学協会・第五常置委員会 『外国人教員, 在外研究員および留学生等に関する実態調査報告書』, 昭和49年11月, 41p。  
付: 「在外研究員・外国人教員および外国人留学生に関する要望書」, 昭和49年6月18日。
- 関西学院広報委員会編 『国際交流と大学』(関西学院を考えるシリーズ第3集), 1977, 415p。  
〔内容〕 第1部 国際交流の理念と歴史的事例, Ⅰ国際交流の理念, Ⅱ国際交流の歴史的事例。  
第2部 大学における国際交流の実態, Ⅰ日本の大学, Ⅱ世界の大学, <特別シ

ンポジウム〉国際交流と大学、〈永井文部大臣インタビュー〉国際交流への新しい視点。

第3部 今後の課題, I 現在の問題点, II 外国語教育, III 可能性をさぐる。

東北大学庶務部庶務課 『各種研究員等関係資料集』, 昭和52年1月, 161 p.

日本大学学務部国際課 『日本大学海外学術交流資料』(学校法人日本大学寄附行為)〔'77.7〕  
pp. 5~15 (和文), pp. 16~30 (英文)。

日本大学学務部国際課 『日本大学海外学術交流資料』(Nihon University Profile)〔'77.7〕  
pp. 31~41。

日本大学学務部国際課 『日本大学海外学術交流資料』(日本大学学術等の国際交流協定に関する基本要綱)〔'77.7〕 pp. 42~43 (和文), pp. 44~45 (英文), pp. 46~47 (独文), pp. 48~49 (仏文)。

日本大学学務部国際課 『日本大学海外学術交流資料』(海外学術交流協定締結校) 1. ワシントン州立大学, 2. 韓国ソウル・中央大学校, 3. ベルリン自由大学, 4. ジョン・ムーラン大学〔'77.7〕 pp. 53~105。

日本大学学務部国際課 『日本大学海外学術交流資料』(海外学術交流協定合意書調印校) 1. 韓国ソウル・建国大学校, 2. ハワイ大学, 3. サンパウロ大学〔'77.7〕 pp. 109~147。

日本大学学務部国際課 『日本大学海外学術交流資料』(参考資料 フルブライト委員会編集日本大学案内-英文)〔'77.7〕 pp. 149~171。

関西学院企画調査室 『主要大学国際交流実態調査報告書』騰写版, 昭和53年2月, 51 p.

〔内容〕 I 学生の交流, II 教員の交流, III 外国人教員宿泊施設, IV 国際交流機関, V 国際交流制度, VI 国際化へのユニークな試み, VII その他。

日本大学学務部国際課 『日本大学海外学術交流資料(1)-2』昭和53年5月25日, 204 p.

喜多村和之/天野郁夫/湯浅信之 「諸外国の大学における国際交流-とくにアメリカ合衆国を中心として」『大学研究ノート』33〔'78.10〕60 p.

○

宮山平八郎 「ベトナムの大学と国際教育協力」『学術月報』22-12〔'70.3〕 pp. 42~50。

都留 春夫 「東南アジアの諸大学と研究者および学生を交換するプログラムの可能性について-資料」『国際基督教大学学報(教育研究)』15〔'71.10〕 pp. 169~180。

朱牟田夏雄 「国際的文化交流と日本大学の受け入れ体制について」『IDE』123〔'72.1〕 pp. 56~60。

「わが国の大学における外国人学生・学者の受け入れ問題研究」『IDE』124〔'72.2-3〕 pp. 6~18。

平沢 薫 「国際交流の条件整備」『IDE』131〔'72.10〕 pp. 24~27。

皆川 卓三 「大学モデルの国際交流-ラテン・アメリカの場合」『大学史研究通信』8〔'74.8〕  
天野 郁夫 『大学モデルの交流』問題について- Eric Ashby の示唆をうけて-(大学モデルの国際交流)」『大学史研究通信』8〔'74.8〕 pp. 54~57。

山本登ほか 「大学の国際交流」『大学時報』120〔'75.1〕 pp. 13~26。

大濱 信泉 「大学と国際交流-特集・大学の国際的使命」『早稲田フォーラム』8〔'75.3〕 pp. 1~15。

山岡喜久男 「大学の国際的使命に関する一覚え書-特集・大学の国際的使命」『早稲田フォーラム』8〔'75.3〕 pp. 16~29。

小笠原林樹 「学術文化の国際交流と大学-特集・大学の国際的使命」『早稲田フォーラム』8〔'75.3〕 pp. 30~42。



- 坂本 稔 「大学間の国際交流について」『厚生補導』110〔'75.8〕pp. 36～43。
- 加藤 俊作 「大学間の国際交流—ずいそう」『大学時報』134〔'77.5〕pp. 63。
- 玉井 乾介 「日暮れて途遠し—只今バンコックにて講義中」『国際交流』15〔'77.11 秋季号〕pp. 20～29。
- デワルト, アルベルト 「ドイツ人から見た日本の大学」『大学時報』137〔'77.11〕pp. 38～43。
- Davidson, Peter M. 「Japanese Studies and the Japanese Universities」『センター通信』, 国際交流基金, 3-1〔'78.4〕pp. 2～5。
- 内藤 貞 「国際主幹からみた大学の国際交流—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 90～93。
- 企画調整部・大学問題研究資料室 「(資料紹介), 資料1 国内編, 資料2 国外編, —特集 大学と国際交流」『早稲田フォーラム』23〔'78.11〕pp. 84～146。
- 松坂ヒロシ 「ゲームとしての大学生活—特集・大学と国際交流」『早稲田フォーラム』23〔'78.11〕pp. 78～83。
- 東後 勝明 「大学の国際化に思う—私の体験から—特集・大学と国際交流」『早稲田フォーラム』23〔'78.11〕pp. 72～77。
- 吉阪 隆正 「大学と国際交流—個人的体験を通じて—特集・大学と国際交流」『早稲田フォーラム』23〔'78.11〕pp. 62～71。

## 研究者の国際交流

- 村松 定孝 「アメリカの日本人教師」『学苑』383〔'71.11〕pp. 50～51。
- 汲川 六郎 「客員研究員制度の紹介」『外国人留学生問題研究会・会報』13〔'72.10〕pp. 2～4。
- 「『わが国の大学における外国人学者の受け入れに関する問題研究セミナー』報告」『IDE』135〔'73.3〕pp. 5～23。
- 高島 武子 「長期在留外国人の管理に関する比較法的研究」『法務研究報告書』61-3, 法務総合研究所, 1974, 147p.
- 西田亀久夫 「公的な資金による学者の海外渡航—特集・大学と国際化」『IDE』163〔'75.11〕pp. 5～12。
- 阿部 美哉 「外国人研究者の招へい—特集・大学と国際化」『IDE』163〔'75.11〕pp. 13～18。
- 中桐 大有 「外国人教授の国際交換」『大学研究ノート』32〔'78.8〕pp. 65～72。
- 西原 春夫 「教員の国際交流—1つの苦言—特集・大学と国際交流」『早稲田フォーラム』23〔'78.11〕pp. 12～19。

## 外国人教員

日本科学史学会編 『日本科学技術史大系 第24巻』(第1章4節 西欧人医師による教育), 第

一法規, 1965, pp. 44~70。

『お雇い外国人①~⑰』, 鹿島研究所出版会, ①概説(梅溪昇), 1968, 253 p. ②産業(吉田光邦), 1968, 213 p. ③自然科学(上野益三), 1968, 258 p. ④交通(山田直匡), 1968, 212 p. ⑤教育・宗教(重久篤太郎), 1968, 226 p. ⑥軍事(高橋邦太郎), ⑦通信(高橋善七), 1969, 225 p. ⑧金融・財政(土屋喬雄), 1969, 225 p. ⑨医学(石橋長英, 小川鼎三), 1971, 213 p. ⑩音楽(野村光一), 1971, 210 p. ⑪政治・法制(梅溪昇), 1971, 257 p. ⑫外交(今井庄次), ⑬開拓(原田一典), 1975, 214 p. ⑭地方文化(重久篤太郎) ⑮建築・土木(村松貞次郎), ⑯美術(隈元謙次郎), ⑰人文科学(金井圓), 1976, 201 p.

本田 一二 『日本の科学百年』(第2章 外人教師の時代), 鹿島出版会, 昭和44年6月, pp. 73~114。

日本科学史学会編 『日本科学技術史大系第13巻物理学』(第1章外人教師指導下の物理学), 第一法規, 1970, pp. 29~54。

民主教育協会 『わがくにの大学における外国人学者受け入れに関する諸問題解決のための要望事項』, 1973, 8 p.

国立大学協会第5常置委員会 『外国人教員, 在外研究員および留学生等に関する実態調査報告書』, 昭和49年, 41 p.

明治大学学術国際交流委員会 『明治大学外国人研究者取り扱いに関する規程』(学術国際交流参考資料集2), 1974, pp. 33~35。

大学セミナー・ハウス 『わが国の大学における国際交流の諸問題—教員・研究者の交流をめぐる—』(第11回大学教員懇談会記録), 昭和50年1月18-19日, 1975, 105 p.

ユネスコ東アジア文化研究センター 『資料 御雇外国人』, 小学館, 1975, 524 p.

渡辺 正雄 『お雇い米国人科学教師』, 講談社, 1976, 535 p.

菅谷 章 『お雇い外国人教師』(日本医療制度史), 原書房, 1976, pp. 75~87。

渡辺 正雄 『日本人と近代科学Ⅱ. お雇い教師の日本研究—魔鏡の科学—』, 岩波書店(新書), 1976, pp. 37~65。

在日韓国・朝鮮人大学教員懇談会・財団法人日本クリスチャン・アカデミー共編 『定住外国人と国公立大学—教員任用差別の徹廃を訴える』, 僑文社, 1977, 115 p.

金井 圓, 吉見周子編 『わが父はお雇い外国人』, 合同出版, 1978, 249 p.



バタワース, ガイ 「《蘭学》今様—昭和50年の—外国人教師—特集・大学と国際化」『IDE』163〔'75. 11〕pp. 27~31。

松本 康正 「東京専門学校で教えた16人の外国人講師たち」『早稲田大学史紀要』10〔'77. 3〕pp. 51~59。

幼方 直吉 「定住外国人の国公立大学任用問題のシンポジウムについて」『教育』27-10〔'77. 9〕pp. 122~115。

小野 次男 「ボイデンとブリジウォーター師範学校」『日本大学人文科学研究所研究紀要』21, '78, pp. 77~100。

岡崎 勝彦 「外国人の法的地位に関する一考察—国公立大学教員任用問題に即して」『名古屋大学—法政論集』75〔'78. 3〕pp. 179~220。

Suleski, R. "Foreign Professors at Japanese Universities: Yes or No?" *Center News, Japanese Studies Center, The Japan Foundation* 3-4 [Dec. '78] pp. 2-3.

- 座談会 (A, B, 日高六郎, 洪炳圭, 小林牧子, 飯沼二郎) 「大学研究室における在日朝鮮人の生活」『朝鮮人』16〔1979〕pp. 2~30。
- 徐 龍達 「在日韓国・朝鮮人の国公立大学教員任用の実情」『朝鮮人』16〔'79. 1〕
- Baldwin, Frank (Intellectual Integration: Foreign Professors at Public Universities) 『センター通信』, 国際交流基金, 3-5〔'79. 1〕pp. 2~4。
- 田中 宏 「国公立大学の定住外国人任用問題」『朝鮮人』16〔'79. 1〕
- Landes, James (The Role and Posture of Foreign Professors in Japanese Universities) 『センター通信』, 国際交流基金, 3-6〔'79. 3〕pp. 2~3。
- 田中 宏 「大学は国際化の扉を開きうるか—外人教員任用法案に注文する」『世界』401〔'79. 4〕pp. 204~213。
- 徐 龍達 「定住外国人の国公立大学教員任用の現状と課題—“国公立大学外国人教員任用特別措置法(案)”の提出にあたって」『部落解放研究』17〔'79. 4〕pp. 12~67。
- Hook, Glenn D. “Foreign Teachers in Japan: From Inaction to Action?” *Center News* 6--1 Japan Foundation, [May '79] pp. 2-4。
- 「大学教員の採用人事と教授会自治」『季刊教育法』32〔'79 夏季特大号〕pp. 224~225。
- 田中 宏 「外国人教員任用法案の問題点」『季刊教育法』32〔'79 夏季特大号〕pp. 202~209。

## 教 育 の 国 際 交 流

- アジア教育協力研究協議会 『アジア諸国に対する教育協力のあり方について(報告)』, 1972, 28 p.
- 文部省大臣官房調査課 『アジア教育協力について—アジア教育協力調査団報告書』, 1972, 110 p.
- 文 部 省 『教員等教育指導者の国際交流の現状と問題点』, 1973, 23 p.
- ライシャワー, E. O. 『地球社会の教育—世界市民意識の創造』, サイマル出版会, 1974, 227 p.
- 日本経済調査協議会 『国際教育交流の諸問題』(調査報告75-5), 昭和51年, 245 p.
- 世界教育日本協会編 『南十字星の村々』(地球村シリーズ2), 1977, 123 p.
- 
- 平塚 益徳 「教育における国際交流—その歴史と現代的意義—」『文部時報』1055〔'65. 8〕pp. 2~9。
- 「教育の国際交流日米会議開らかる」『月刊アジアの友』49〔'67. 11〕pp. 4~11。  
〔内容〕 アジアとの交流の前提, (田中宏, 小木曾友), pp. 6~8。 アメリカの経験, (ヒル, ヘンリー・B), pp. 9~11。
- 吉川 孔敏 「日本の二国間教育協力の現状」『文部時報』〔'69. 9〕pp. 32~41。
- 特集: 教育と国境 『望星』2-10〔'71. 11〕pp. 21~49。  
〔内容〕 教育文化の鎖国時代(原芳男), pp. 22~28。 教育に国境はない(山口房雄), pp. 29~33。 教育の国際性を考える(座談会: 蠟山道雄ほか), pp. 34~49。
- 井門富二夫 「国際教育交流について」『厚生補導』76〔'72. 9〕pp. 2~11。
- 宮山平八郎 「学生国際交流制度の新設と今後の教育文化の交流について」『外国人留学生問題研究会・会報』13〔'72. 10〕pp. 5~7。
- 天城 勲 「国際理解と教育協力」『学校経営』18-2〔'73. 2〕pp. 5~12。

安達 健二 「国際文化交流私感」『学校経営』18-12〔'73.11〕pp. 5~12。  
神谷 克己 「学生諸君の国際性に期待する」『IDE』146〔'74.4〕pp. 22~24。  
早稲田大学外事課 「国際教育交流に関する実態調査「資料紹介」-特集・大学の国際的使命」  
『早稲田フォーラム』8〔'75.3〕pp. 71~80。

特集：国際大学交流セミナー 『コスモス』4〔'75.10〕。

1. 国際大学交流セミナーを共催して(宮山平八郎), pp. 2~3。
2. 国際大学交流セミナーについて(高久真一), pp. 4~6。
3. 国際大学交流セミナーを実施しての所見(沖原豊), pp. 7~9。
4. アンケート調査・国際大学交流セミナーに参加して(千葉晰子, 衛藤和子, 宮山平八郎), pp. 10~15。
5. Letters from the Participants 'Thomas F Glym, Barbara Dunkle, Richard B. Woodbury pp. 16-24.

文部省学術国際局国際教育文化課 (日米文化教育協力-CULCON第8回会議報告) 『学術月報』369〔'76.8〕pp. 62~64。

斎藤 進六 「大学教育の国際交流の問題について」『大学基準協会・会報』37〔'79.12〕pp. 58~72。

ジョン・W・ネーソン 「教育交換における私的目的と国家目的」『国際文化会館 会報』21 pp. 9~16。

### インターナショナル・バカロレア

太田垣幾也 「進展する大学資格の国際化-国家主義を超えた教育運動」『エコノミスト』56-11〔'78.3.21〕pp. 48~51。

太田垣幾也 「国際大学入学資格試験制度への理解を求めて」『大学世界』2-1〔'79〕pp. 27~33。

太田垣幾也 「インターナショナル・バカロレア制度」『内外教育』〔'79.7.10〕pp. 13~17。

### 学 生 の 国 際 交 流

前田 陽一 「学生の国際交流の意義」『厚生補導』17〔'67.10〕pp. 2~8。

天城 勲ほか 「学生の国際交流座談会」『厚生補導』17〔'67.10〕pp. 13~32。

植木 浩 「教育・学術・文化の国際交流の問題-留学生の交流-」『文部時報』1135〔'72.1〕pp. 49~54。

讃岐 和家ほか 「わが国における学生国際交流」『厚生補導』76〔'72.9〕pp. 12~33。

林 隆而 「家庭滞在を通しての国際交流」『厚生補導』76〔'72.9〕pp. 63~68。

植木 浩 「世界留学生と日本」『IDE』130〔'72.9〕pp. 8~12。

文部省大学学術局学生課 「学生の国際交流」『厚生補導』76〔'72.9〕pp. 2~76。

『第10回 国際ユネスコ学生交換活動報告書』, 日本ユネスコ協会連盟, 〔'75〕63p.

宮地 裕 「学生の国際交流について」『厚生補導』110〔'75.8〕pp. 2~6。

猪又 二郎 「学生の国際交流の現況」『厚生補導』110〔'75.8〕pp. 7~20。

- 石垣 博美 「学生国際交流制度の拡充にかんする一提案—寄稿」『コスモス』4〔'75. 10〕pp. 25～26。
- IDE編集部 「学生の国際交流—IDカードと学生の移動—特集・大学と国際化」『IDE』163〔'75. 11〕pp. 31～34。
- 菊池 靖 「社会主義国との学生交流」『外国人留学生問題研究会・会報』19〔'75. 12〕
- タイ国学長団 「学生交流計画のための日本諸大学訪問に関する報告書—タイ国学長団からの報告」『国立大学協会・会報』76〔'77. 6〕pp. 18～20。
- 沖原 豊 「学生の国際交流について」『学内通信・広島大学』154〔'77. 6〕pp. 1～5。
- 特集・学生の国際交流 第Ⅰ部 国際教員政策と国際学生。  
第Ⅱ部 アメリカの大学における国際交流。  
第Ⅲ部 日本の私立大学における国際交流 参考資料、『外国教育事情第7号』日本私立大学連盟・外国教育事情調査委員会〔'79. 3〕204p.

### 国際大学／国際学園都市

- 「国際研究学園都市建設推進協議会」『東北につくる国際研究学園都市』, 1971, 16p.  
国際研究学園都市建設推進協議会 『国際研究学園都市マスタープラン』, 1972, 60p.

○

- 原田 哲也 「国際工科大学—OECDの科学技術関係活動について5, その他」『学術月報』22—4〔'69. 7〕pp. 22～23。
- 阿部 利夫 「太平洋周圏大学の設立」『カレント・旬報』169〔'69. 7. 15〕pp. 25～30。
- ケイド, J. A. 「国際技術管理大学」『OCED Observer』47〔'70. 8〕pp. 52～59。
- 中道 琢郎 「仙台国際研究学園都市問題について」『日本の科学者』5—11〔'70. 11〕pp. 22～23。
- ローズ, J. 「世界をまたにかけける学園」『日米フォーラム』16—12〔'70. 12〕pp. 69～73。

### 国 連 大 学

- 日本ユネスコ国内委員会 「国連大学の構想に関する建議」『日本ユネスコ国内委員会』, 1970, 5p.
- トインビー・A 「“国連大学”の将来性」『未来を生きる—トインビーとの対話』, 毎日新聞社, 1971, pp. 164～168。
- 文部省大臣官房総務課 国連大学調査準備室 『国連大学関係資料集』, 1973, 191p.
- 国連国際大学調査準備室 「国連大学に関する関係機関の構想と問題点—昭和46年10月6日教育学術新聞記事」『大学問題総資料集Ⅷ, 追録:年表・総索引・放送大学・学術体制』有信堂, 1973, pp. 122～126。
- 国際連合事務局 「国連国際大学の構想(案)—昭和45年6月27日朝日新聞記事」『大学問題総資料集Ⅷ, 追録:年表・総索引・放送大学・学術体制』, 有信堂, 1973, pp. 114～120。

- 日本ユネスコ国内委員会 「国連大学構想(建議) - 1973年5月15日」『大学問題総資料集Ⅷ, 追録: 年表・総索引・放送大学・学術体制』, 有信堂, 1973, pp. 120~121。
- 文部省学術国際局ユネスコ国際部企画連絡課 『国連大学関係資料集 第3集』, 1975, 155 p.
- 文部省学術国際局 『国連大学』, 1975, 17 p.
- 外務省情報文化局 『国連大学 - その設立の経緯, 仕組みと将来の展望等』, 1975, 19 p.
- 『国際連合大学 - 目的, 組織, 他の機関との関係』, 国際連合大学, 1975, 12 p.
- 『国際連合大学 - 最初の1年間1975 - 1976』, 国際連合大学, 1976, 20 p.
- 文部省学術国際局ユネスコ国際部企画連絡課 『国連大学関係資料集 第4集』, 1976, 218 p.
- ヘスター, ジェームズ・M 『国際連合大学はなぜ必要か』, 1976, 16 p.
- 国際連合大学 『国際連合大学 - その2年目 - 1976~1977』, 1977, 61 p.



- 日本ユネスコ国内委員会 「国連大学構想建議」『内外教育』2165〔'70.5.26〕pp. 19~20。
- 「“国連大学”の構想について(スポット)」『厚生補導』49〔'70.6〕pp. 74~76。
- 「誘致へ, 日本はじめ十ヶ国 - 具体化する国連大学をめぐる」『内外教育』2184〔'70.7.28〕pp. 2~12。
- 〔内容〕 盛り込む意欲的な構想(広長敬太郎), pp. 5~6。 国連事務局報告書の要点。
- ウ・タント 「国連大学の可能性上・中・下 - 報告7月8日・全文」『世界週報』51 - 36~38〔'70.9〕上51 - 36〔'70.9.8〕pp. 74~92。 中51 - 37〔'70.9.15〕pp. 78~93。 下51 - 38〔'70.9.22〕pp. 78~93。
- 木村 一治 「国連大学」『評点』10〔'70.11〕pp. 55~69。
- Nagai, Michio “UN International University in a Changing World” *Japan Quarterly* 18-4 [Oct-Dec. '71] pp. 402-407.
- 日本政府 「国連国際大学に関するわが国の意見および提案(案)」『内外教育』2269〔'71.6.8〕pp. 19~20。 『文部広報』530〔'71.6.23〕pp. 6。
- 天城 勲 「国連大学構想の現状」『厚生補導』73〔'72.6〕pp. 2~8。
- 古川 氏幸 「国連大学 - 1 - (付・決議原文地)」『金城学院大学論集』54〔'72.12〕pp. 1~26。
- 広長敬太郎 「国連大学の実現本決まり - 国連総会に出席して」『文部時報』1148〔'73.1〕pp. 52~62。
- 『国際連合大学ニューズレター』2-2〔'74〕4 p.
- 天城 勲ほか 「国連大学の発足にあたって - 座談会」『文部時報』1160〔'74.1〕pp. 7~24。
- 広長敬太郎 「国連大学 - その構想と我が国の協力」『文部時報』1160〔'74.1〕pp. 25~31。
- 西田亀久夫 「“国連大学”考」『厚生補導』92〔'74.1〕pp. 2~9。
- 「国連大学に関する資料(資料紹介) - 特集・大学の国際的使命」『早稲田フォーラム』8〔'75.3〕pp. 86~96。
- 梅棹忠夫, ロックハイマー, ロイ 「国連大学を受け入れる - 対談」『国際交流』6〔'75.8.夏季号〕pp. 46~57。
- Hester, J.M. “The United Nations University in Japan” *Bulletin* 34 [Sep. '75] pp. 33-42.
- 佐瀬 稔 「壮大な夢に取り組んだ国連大学 - 国際協力の現場から⑤」『論展』〔'76.2〕pp. 107~113。

『国際連合大学ニューズレターVol. 1. 』〔'76～77〕48 p.

特集・国連大学の現状と将来 『学術月報』29-7〔'76. 10〕pp. 454～479。

〔内容〕 I 国連大学の概要と現状（大塚喬清）， pp. 454～456。

II 国連大学の構想が固まるまで（西田亀久夫）， pp. 457～459。

III 国連大学優先研究領域の活動状況， 1. 世界の飢餓（逸見謙三）， pp. 459～461。  
2. 人間と社会開発（武者小路公秀）， pp. 462～466。 3. 天然資源の管理と利用（今泉常正）， pp. 467～469。 4. 国連大学の研究・研修活動について（文部省学術国際局ユネスコ国際部企画連絡課）， pp. 469～475。

IV 国連大学と日本（川野重任）， pp. 476～479。

鳥飼 繁 「国連大学特別措置法について—国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法 51. 6. 22 公布，法律第 72 号」『時の法令』946〔'76. 11. 3〕pp. 19～23。

七田 基弘 「国際連合大学と多国籍学術協力—特に東南アジア諸国との協力を中心として」『学術月報』31-8〔'78. 11〕pp. 31～35。

## 個 別 大 学

千葉大学 『千葉大学留学生部—12年の歩み—〕〔'72. 6〕163 p.

武者小路公秀 「大学の国際性—特に上智大学の場合について」『大学問題』コロキウム編—大学の原点』，理想社，1972， pp. 157～180。

北村 正直 「東南アジア諸国の高等教育と我が国の大学教育の関連について—講演」『第 20 回工業教育研究集会報告』，北海道工業教育協会，1973， pp. 2～16。

大下尚一・秋山健・北垣宗治 「同志社と国際交流」『同志社—百年のあゆみ—』，1976， pp. 97～106。

東北大学庶務部庶務課 『外国人留学生関係資料集』，昭和53年3月，195 p.

高知大学学生課 『海外留学のしおり—学生国際交流制度，教員養成大学・学部学生海外派遣制度』，昭和53年9月，9 p.

○

土橋 信男 「ICUの外国人留学生制度—大学における留学生指導の実例」『厚生補導』19〔'67. 12〕pp. 31～35。

汲川六郎ほか 「東北大学における外国人留学生指導の当面する課題について—大学における留学生指導の実例」『厚生補導』19〔'67. 12〕pp. 43～46。

宮川 清 「東京大学における外国人学生の生活と意見—文部省奨学金留学生生活実態調査」『厚生補導』19〔'67. 12〕pp. 51～54。

高橋 睦 「チューター“tutor”制度と留学生指導—大学における留学生指導の実例（東工大）」『厚生補導』19〔'67. 12〕pp. 36～38。

浦上 要三 「現場で見た留学生の生活—日本語に関連して—大学における留学生指導の実例（京大）」『厚生補導』19〔'67. 12〕pp. 39～42。

野本 謙作 「大阪大学工学部における外国人留学生の指導」『カウンセリング研究』3〔'68. 9〕pp. 43～49。

和田 博徳 「アジアの近代化と慶応義塾—ベトナムの東京義塾・中国の梁啓超その他について」

- 『慶応義塾大学商学部日吉論文集（創立十周年記念）』（'67. 9）pp. 5～19。
- 石井 隆 「慶応義塾大学における学生国際交流活動—国際交流活動紹介」『厚生補導』17〔'67. 10〕pp. 46～48。
- 川島 外治 「上智大学における学生の国際交流—国際交流活動紹介」『厚生補導』17〔'67. 10〕pp. 39～42。
- 山代 昌希 「早稲田大学における国際交流—国際交流活動紹介」『厚生補導』17〔'67. 10〕pp. 43～45。
- さねとうけいしゅう 「中国人早大留学小史」『東洋文学研究』16〔'68. 3〕pp. 1～27。
- 早稲田大学国際部事務局 「早稲田大学国際部について」『IDE』123〔'72. 1〕pp. 51～55。
- 松尾 茂雄 「京都大学における国際交流の実態」『厚生補導』76〔'72. 9〕pp. 34～40。
- 石谷 一郎 「慶応義塾大学における国際交流の実態」『厚生補導』76〔'72. 9〕pp. 41～44。
- 金山 宣夫 「レポート 慶大ビジネス・スクール—国際化の中で国際性を問う—」『論展』3〔'74〕pp. 99～107。
- 山本 襄治 「上智大学における学生の国際交流—特集・わが大学における学生の国際交流」『IDE』144〔'74. 1〕pp. 5～10。
- 国弘 正雄 「国際商科大学における学生の国際交流—特集・わが大学における学生の国際交流」『IDE』144〔'74. 1〕pp. 17～22。
- 山代 昌希 「早稲田大学における学生の国際交流—特集・わが大学における学生の国際交流」『IDE』144〔'74. 1〕pp. 11～17。
- 藤本 輝夫 「大阪市立大学における学生国際交流，殊に外国人留学生の受け入れの実態と課題」『外国人留学生問題研究会・会報』17〔'74. 11〕pp. 2～3。
- さねとうけいしゅう，細野浩二 「早稲田大学における中国留学生教育—とくに清国留学生部を中心にして—特集・大学の国際的使命」『早稲田フォーラム』8〔'75. 3〕pp. 43～55。
- 山根 太郎 「青山学院大学における学生の国際交流」『厚生補導』110〔'75. 8〕pp. 30～35。
- 穂積 信夫 「国際部のこと」『早稲田フォーラム』13〔'76. 6〕pp. 41～46。
- 野村昭一郎 「東京工業大学における外国人留学生の受け入れ現況と問題点—特集・外国人留学生」『厚生補導』124〔'76. 10〕pp. 52～60。
- 山代 将 「早稲田大学における裏学生受け入れ—特集・外国人留学生」『厚生補導』124〔'76. 10〕pp. 44～51。
- 浅香 正 「同志社と国際主義」『同志社時報』59〔'76. 11〕pp. 4～17。
- 木田文部省事務次官ほか 「筑波大学における国際学術交流について—座談会」『筑波フォーラム』2〔'77. 3〕pp. 4～17。
- 宮崎 侃 「拓殖大学における国際交流の現状と問題点」『外国人留学生問題研究会・会報』22〔'77. 11〕pp. 4～5。
- 大下 尚一 「同志社大学における国際交流の現状」『外国人留学生問題研究会・会報』22〔'77. 11〕pp. 2～3。
- 三宅 彰 「ICUの non-Japanese Student—特集・留学生」『IDE』186〔'78. 1-2〕pp. 46～52。
- 山代 昌希 「早稲田大学における留学生—その実態と問題点—特集・留学生」『IDE』186



〔'78. 1 - 2〕 pp. 40 ~ 45。

- 平井恒夫・北垣宗治・中島和子・J・M・Rasche・佐藤幸夫 「同志社と国際交流—座談会」『同志社時報』63〔'78. 3〕 pp. 18 ~ 34。
- 西尾 理弘 「国際交流課1年の歩み」『筑波フォーラム』4〔'78. 3〕 pp. 3 ~ 74。
- 野々口格三 「立教大学における国際交流の現状」『外国人留学生問題研究会・会報』23〔'78. 6〕 pp. 6 ~ 7。
- 山本 忠士 「垂細垂大学における国際交流の現状と問題点」『外国人留学生問題研究会・会報』23〔'78. 6〕 pp. 4 ~ 5。
- 藤沢 益夫 「慶応義塾大学における帰国子女受け入れの新制度について」『海外子女教育』65〔'78. 7〕 pp. 44 ~ 45。
- 湯浅 信之 「広島大学における国際交流の現状と問題点—教官の海外渡航—」『大学研究ノート』32〔'78. 8〕 pp. 47 ~ 54。
- 川名 一成 「東京大学の国際交流—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78. 9〕 pp. 85 ~ 89。
- 西尾 理弘 「大学の国際化—筑波大学国際交流課からの実践報告—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78. 9〕 pp. 94 ~ 99。
- 北条 淳子 「早稲田大学における国際交流の諸問題—国際部・語学教育研究所から—特集・大学と国際交流」『早稲田フォーラム』23〔'78. 11〕 pp. 41 ~ 50。
- 増田 興 「国際化の時代に生きる早稲田大学—特集・大学と国際交流」『早稲田フォーラム』23〔'78. 11〕 pp. 29 ~ 40。
- 内田 満 「大学の国際交流と国際化—早稲田大学の場合—特集・大学と国際交流」『早稲田フォーラム』23〔'78. 11〕 pp. 20 ~ 28。。

#### 国際交流機関・団体（日本）

- 国際交流基金 『国際交流基金のあらまし—昭和50年度版』, 1975, 147 p.
- 国際交流基金 『国際交流基金』, 1976, 32 p.
- 国際交流基金 『国際交流基金のあらまし—昭和51年度版』, 1976, 173 p.
- 国際交流基金 『国際交流基金年報—昭和52年度版（昭和51年4月1日～昭和52年3月31日）』, 1977, 246 p.



- 西郷 晋次 「財団法人サンケイスカラシップ—育英奨学団体めぐり—5」『厚生補導』5〔'66. 10〕 pp. 75 ~ 79。
- 野村 実 「日本における世界大学奉仕団の活動—とくにその厚生活動について」『厚生補導』14〔'67. 7〕 pp. 73 ~ 78。
- 鈴木 茂弘 「国際経済商学学生協会—国際交流活動紹介」『厚生補導』17〔'67. 10〕 pp. 33 ~ 35。
- 牛山 試 「国際学生技術研修協会—国際交流活動紹介」『厚生補導』17〔'67. 10〕 pp. 36 ~ 38。
- 生沼 実 「日本国際教育協会概要」『厚生補導』19〔'67. 12〕 pp. 55 ~ 56。
- 石井 隆 「JAFSAの活動について—留学生問題研究会」『厚生補導』19〔'67. 12〕

pp. 47 ~ 50。

外国人留学生問題研究会 「NAFSAの歩みと現状のあらまし」『外国人留学生問題研究会・会報』2〔'68. 9〕 pp. 2 ~ 4。

日本国際教育協会 『日本国際教育協会について』〔'69〕

Promotion Committee of International Academic Center *International Academic Center, Promotion Committee of International Academic Center*, ['71] 8p.

日本国際教育協会 「日本国際教育協会年報 1971 / 72」〔'72〕 40 p.

新井 郁男 「国際社会の教育における国際機関の役割—UNESCO, SEAMEO, OECDの考察を中心にして」, 日本教育社会学会編『教育社会学の展開』, 東洋館出版社, 1972, pp. 241 ~ 253。

宮山平八郎 「留学生と日本国際教育協会」『厚生補導』76〔'72. 9〕 pp. 69 ~ 76。

小川 芳男 「NAFSA総会に出席して」『コスモス』2〔'73. 3〕 pp. 21 ~ 22。

国際交流基金企画室 「国際交流基金について」『外国人留学生問題研究会・会報』14〔'73. 4〕 pp. 2 ~ 3。

Japan International Cooperative Agency *JICA Annual report, 1975*, 191 p.

Japan Society for the Promotion of Science *Japan Society for the Promotion of Science*, '75, ['75] 43 p.

国際学友会 「文化交流団体の横顔」『国際交流』4〔'75. 1 冬季号〕 pp. 35 ~ 36。

東京YWCA国際部留学生母親運動 「文化交流団体の横顔」『国際交流』5〔'75. 4 春季号〕 pp. 38 ~ 40。

林 雄二郎 「現代社会と財団の活動」『国際交流』7〔'75 秋季号〕 pp. 24 ~ 33。

「わが国における教育・学術・文化の国際交流関係団体一覧（特集・大学と国際化）」『IDE』163〔'75. 11〕 pp. 35 ~ 36。

日本国際教育協会 「日本国際教育協会年報 1976」〔'76〕 30 p.

酒井 佐一 「国際研究センター（C. F. T.）創設に寄せて—外国語の見地から」『名古屋商科大学論集』21 - 1, 2〔'76. 10〕 pp. 87 ~ 92。

Japan International Cooperative Agency *JICA Annual Report, '76*, ['77] 241 p.

「日本学術振興会の国際学術交流」『学術月報』378〔'77. 3〕 pp. 4 ~ 31。

〔内容〕 I 研究者の交流, pp. 4 ~ 18。 外国人研究者の招へい（田中信行）, pp. 11。 外国人研究者を招致して（吉田善一）, pp. 12 ~ 13。 北大の国際交流活動について（篠沢公平）, pp. 13 ~ 14。 テヘランの研究センターで（大野盛雄）, pp. 14 ~ 15。 ソ連300日のはじめの3日間（加藤九祚）, pp. 15 - 16。 ドイツ派遣研究者としての体験と印象（古屋善正）, pp. 17 ~ 18。

II セミナー及び共同研究, pp. 19 ~ 28。 日米教育文化協力事業の10年（前田陽一）, pp. 23 ~ 24。 研究の国際協力の問題点（三浦義彰）, pp. 24 ~ 25。 国際共同研究に思う（一宮亮一）, pp. 25 ~ 26。 日米科学協力事業セミナーの体験より（小泉光恵）, pp. 26 ~ 27。 日米セミナー「生物活性を有する複合糖質の生化学的研究」をとおして（大沢利昭）, pp. 28 ~ 29。

III 国際研究修会, pp. 29。

日本国際教育協会 「文化交流団体の横顔」『国際交流』14〔'77. 8 夏季号〕 pp. 55 ~ 56。

赤池 豊 「とうきゅう外来留学生奨学財団の活動と理念—特集・留学生」『IDE』186〔'78. 1 - 2〕 pp. 53 ~ 57。

## 国際交流機関・団体（外国）

外務省情報文化局第3課 『“フルブライト法による日米教育交換計画”の概要—在日合衆国教育委員会について』, 1956, 67 p.

Scarangelo, Anthony *A Fulbright Teacher in Japan*, The Hokuseido Press, 1957, 148 p.

○

ジョンソン, W, コリガン, F. 「フルブライト計画の概観—フルブライト計画20周年特集」『日米フォーラム』12-8〔'66.8〕pp. 1~8。

太田 明広 「フムボルト財団の外国人奨学金について—諸外国における外国人奨学金制度“西ドイツの場合”」『学術月報』21-12〔'69.3〕pp. 26~28。

佐久間悦治郎 「フルブライト教育交換計画について」『厚生補導』76〔'72.9〕pp. 45~50。

中川 経治 「アレキサンダー・フォン・フンボルト奨学金について」『厚生補導』76〔'72.9〕pp. 51~56。

千葉 晰子 「アメリカ合衆国の国際教育協会“IIE”について」『コスモス』2〔'73.3〕pp. 28~31。

千葉晰子, 衛藤和子, 宮山平八郎 「外国人留学生の諸問題—駒場留学生会館在館生のアンケート調査から—」『コスモス』2〔'73.3〕pp. 10~20。

フルブライト, J・ウィリアム 「文化交流の方法—フルブライト教育交換計画をめぐって—巻頭インタビュー」『国際交流』6〔'75.8 夏季号〕pp. 2~10。

碓氷 尊ほか 「国際機関の性格—国連ファミリーに勤務して—座談会」『国際交流』13〔'77.4 春季号〕pp. 50~59。

「資料」ブルシェーフランス政府給費留学生—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 65~66。

「資料」ブリティッシュ・カウンシル計画—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 63~64。

「資料」フンボルト日本人奨学生について—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 53~62。

「資料」フルブライト計画について—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 43~53。

「資料」主要諸外国における留学生受け入れと公費留学生制度—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 37~43。

岡村 総吾 「ブリティッシュ・カウンシルについて—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 21~29。

山崎 和夫 「フンボルト留学制度の評価—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 15~20。

井門富二夫 「フルブライト委員会25年—その栄光と悲しみ—今月のテーマ《留学と学術》」『IDE』192〔'78.9〕pp. 6~14。

加藤 幹雄 「戦後の日本文化の支柱フルブライト計画—特集・文化のかけ橋」『望星』10-6〔'79.6〕pp. 42~49。

山崎 和夫 「世界の学術振興に寄与フンボルト財団—特集・文化のかけ橋」『望星』10-6〔'79.6〕pp. 34~41。

## Ⅱ 留 学

### 留 学 一 般

- マスミ, アーマッド・E・ 「文化交流における留学の意義」『月刊アジアの友』45〔'67.7〕  
pp. 4～6。
- 特集・留学者の思想 『望星』〔'71.11〕 pp. 50～76。  
〔内容〕 入唐留学僧空海・最澄（稲谷祐宣）， pp. 50～55。鎖国時代の漂流者ジョン万次郎（片方善治）， pp. 56～61。幕末維新の渡航者たち（平川祐弘），  
pp. 62～69。明治期アメリカ留學生生活の断面（金井 圓）， pp. 70～76。
- 小堀桂一郎 「留学意識の原型—天平の夢」『留学の思想』，三修社，1972， pp. 189～194。  
丸山 匠 「留學生の原型」『留学の思想』，三修社，1972， pp. 184～188。  
佐原 六郎 「矢代幸雄氏のポッティチェリ研究」『留学の思想』，三修社，1972， pp. 155～168。
- 松本 道介 「横光利一の洋行」『留学の思想』，三修社，1972， pp. 109～130。  
高山 鉄男 「帰国者の思想—永井荷風論」『留学の思想』，三修社，1972， pp. 91～108。  
谷口 茂 「漱石の留学」『留学の思想』，三修社，1972， pp. 39～68。  
原 芳男 「文化交流と留学」日本教育社会学会編『教育社会学の展開』，東洋館出版社，  
1972， pp. 253～265。
- 池田 信一 「海外留学—その大衆化の系譜と現状」『望星』〔'76.2〕 pp. 66～73。  
芳賀 徹 「画家の留学—黒田清輝の場合」『国際交流』15〔'77.11 秋季号〕 pp. 30～39。
- 特集・留学の研究 『流動』10—4，1978， pp. 42～163。
- 石附 実 「留学と大学—遊学の日常化へ」（特集留學生）『IDE』186〔'78.1—2〕  
pp. 17～25。
- 大谷 啓治 「増える学生の留学」『大学時報』142〔'78.9〕 pp. 62～65。

### 留 学 の 歴 史

- 国立国会図書館一般考査部 『幕末和蘭留學生関係資料目録』（考査目録第十一号），昭和28年  
3月。
- 尾形 裕康 「海外留學生及び視察者」『西洋教育移入の方途』，野間教育研究所，1961， pp.  
15～71。
- 大村 喜吉 『日本の留學生—和魂洋才の若ものたち』，早川書房，1967， 258 p.  
内藤 遂 『幕末ロシア留学記』，雄山閣，昭43， 301 p.  
石附 実 「留學生群像—産業界の旗手稲畑勝太郎」『日本人の100年』，世界文化社，1972，  
pp. 98～101。（1977，『幕末明治の群像—文明開化の時代』と改題。）  
梅 溪昇 「留學生群像—西洋思想の移入と津田」『日本人の100年』，（1977，『幕末明治の  
群像—文明開化の時代』と改題），世界文化社，1972， pp. 86～89。  
山崎 孝子 「留學生群像—女子教育の先駆 津田梅子」『日本人の100年』，（1977，『幕末明

- 治の群像—文明開化の時代』と改題)世界文化社, 1972, pp. 90~93。
- 高橋邦太郎 「留学生群像—陸海軍のホープ東郷と大山」『日本人の100年』, (1977, 『幕末明治の群像—文明開化の時代』と改題), 世界文化社, 1972, pp. 94~97。
- 奈良本辰也 「留学生群像—三人の機織伝習生」『日本人の100年』, (1977, 『幕末明治の群像—文明開化の時代』と改題), 世界文化社, 1972, pp. 102~105。
- 芳賀 徹 『幕末日本人の西欧体験—若き福澤を中心として』(慶応義塾大学 福澤記念選書6) 1972, 35 p.
- 石附 実 『近代日本の海外留学史』, ミネルヴァ書房, 1972, 339 p.
- しんせい会編 『留学の思想』, 三修社, (NS叢書1編集責任者:松本道介), 1972, 229 p.
- 小川 一枝ほか 「留学神話の崩壊 シンポジウム」『留学の思想』, 三修社, 1972, pp. 6~38。
- 滝内 楨雄 「留学の明暗—鷗外と漱石の場合」『留学の思想』, 三修社, 1972, pp. 69~90。
- 朝日新聞社編 「留学生取締規則反対運動」『日本と中国』, 1972, pp. 65~257。
- 日本国際教育協会 『日本留学生制度史—留学生の派遣と受け入れの歴史』, 1972, pp. 107~214。
- 金沢 謹 『思い出すことなど』, 国際学友会, 1973, 158 p.
- 犬塚 孝明 『薩摩藩英国留学生』, 中央公論社(中公新書), 1974, 108 p.
- 多賀秋五郎 「留日中国人学生のもたらした影響—清末の教育に与えた日本の影響」『近代アジア教育史研究下巻』, 岩崎学術出版社, 1975, pp. 162~176。
- 石附 実 「海外留学生はどのようにして派遣され, どんな成果をおさめたか 富国強兵の主唱者たち」『海外交渉史の視点』, 第3巻(近代・現代), 日本書籍, 1976, pp. 54~57。
- 早稲田大学ウリ同窓会 『韓国留学生運動史 早稲田大学ウリ同窓会七〇年史』, 1976, 394 p.
- 梅 溪昇 「幕末遣外使節団や留学生は何を学び何をもたらしたか」『海外交渉史の視点』第2巻(近世), 日本書籍, 1976, pp. 290~294。
- 渡辺 實 『近代日本海外留学生史上』, 講談社, 1977, 581 p.
- 渡辺 實 『近代日本海外留学生史下』, 講談社, 1978, 542 p.
- 上垣外憲一 『維新の留学生 西洋文明をどうとりいれたか』, 主婦の友社, (TOMO選書), 1978, 203 p.
- 
- 林 竹二 「森有礼とトマス・レーク・ハリス—明治維新直前, 直後における日本人アメリカ留学生に関する調査研究のための覚えがき」『日米フォーラム』9-3, 9-4 ['63] 9-3, pp. 92~102, 9-4, pp. 102~111。
- 林 竹二 「幕末の海外留学生 その一—その五(完)」『日米フォーラム』, ['64] その一(10-1), pp. 31~45, その二(10-2), pp. 79~91, その三(10-3) pp. 90~99, その四(10-6), pp. 63~80, 完(10-7, 8), pp. 45~61。
- 杉井 六郎 「横井左平太と横井大平のアメリカ留学」『社会科学』3-4, 同志社大人文学研究所, ['70] pp. 1~109。
- 小堀桂一郎 「明治知識人の留学体験—鷗外・漱石にとっての“日本人”」『伝統と現代』2-8 ['71] pp. 94~106。
- 宮井 一郎 「西欧近代と帰朝者の位相—鷗外・漱石における伝統回帰」『伝統と現代』20, ['73] pp. 54~63。
- 高橋邦太郎 「留学史・西遠寺公望—明治初期の留学」『日本仏学史研究』3, 日本仏学研究会, ['73.5] pp. 1~5。

- 高橋邦太郎 「留学史・入江文郎」『日本仏学史研究』4, 日本仏学史研究会〔'73.12〕 pp. 1~5。
- 西堀 昭 「仏国留学」『日本仏学史研究』4, 日本仏学史研究会〔'73.12〕 pp. 6~22。
- Ishizuki, Minoru "Japan's Modernization and Study Abroad" *The Wheel Extended - A Toyota Quarterly Review*, Toyota Motor Sales Co., 4-3 [Winter '74] pp. 21-29.
- 細野 浩二 「所謂『支那保全』論と清国留日学生教育の様態—同仁会・東京同仁医薬学校を例にして」『早稲田大学史紀要』8〔'75.3〕 pp. 76~98。
- 平川 祐弘 「ああ南方特別留学生」『文芸春秋』53-6〔'75.6〕 pp. 266~274。
- 西堀 昭 「明治初年のフランス留学資料」『日本仏学史研究』6, 日本仏学史研究会, 〔'75.6〕 pp. 24~33。
- 二見 剛史 「戦前日本における中国人留学生の教育—特設予科制度の成立と改編」『日本大学・精神文化研究所, 教育制度研究所紀要』7, 1976, pp. 69~123。
- 北山 康夫 「近代中国のアメリカ留学生について」『大阪教育大学紀要Ⅱ社会科学・生活科学』25-3〔'76〕 pp. 139~146。
- 興水はる海 「井口阿くり考—外国留学生報告書をめぐって」『お茶の水女子大学人文科学紀要』29-2〔'76.3〕 pp. 39~54。
- 井田 進也 「中江兆民のフランス—明治初期官費留学生の条件, (上)」『文学』44〔'76.7〕 pp. 873~889。  
「中江兆民のフランス—明治初期官費留学生の条件, (中)」『文学』44〔'76.8〕 pp. 65~80。  
「中江兆民のフランス—明治初期官費留学生の条件, (下)」『文学』44〔'76.10〕 pp. 10~38。
- 門田 明 「薩摩藩留学生覚え書き—とくに長沢鼎とアバディーンについて」『英学史研究』10〔'77〕 pp. 91~100。
- 菊井 維大 「加藤正治先生とドイツ留学」『書齋の窓』269〔'77〕 pp. 49~53。
- 松村 幹夫 「ロンドン大学と日本人 英学史の旅(2)」『NHKテレビ英語会話テキスト』, 〔'77.5〕 pp. 58~60。
- Hara, Yoshio "The Replacement of Foreign Teachers by Japanese Who Studied Abroad - From Westernization to Japanization" *The Developing Economies*, XV-4 [Dec. '77] pp. 440-461.
- 石附 実 「幕末明治初期の海外留学」『歴史と地理』270, 日本史の研究100号記念号, 〔'78〕 pp. 5~18。
- 犬塚 孝明 「英国留学時代の森有礼—その国家意識をめぐって」『武蔵大学人文学会誌』9-3〔'78〕 pp. 75~128。
- チースリク, H. 「日本最初の渡欧留学生」『歴史と人物』, 中央公論社〔'78.1〕 pp. 114~121。
- 阿部 洋 「中国近代における海外留学の展開—日本留学とアメリカ留学—」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流, 〔'78.3〕 pp. 5~38。
- 細野 浩二 「清末留日極盛期の形成とその理論構造—西太后新政の指導理念『支那保全』論的対応をめぐって」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流, 〔'78.3〕 pp. 39~60。
- 二見 剛史 「戦前日本における中国人留学生予備教育の成立と展開」『国立教育研究所紀要』94,

- アジアにおける教育交流, [ '78.3 ] pp. 61 ~ 80。
- 二見剛史 佐藤尚子 「中国人日本留学史関係統計」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流, [ '78.3 ] pp. 99 ~ 118。
- 斎藤 秋男 「彭湃—中国人日本留学生の一典型—」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流, [ '78.3 ] pp. 81 ~ 98。
- 阿部 洋 「二十世紀初頭における朝鮮人の日本留学—『韓国皇室特派留学生』の場合—」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流, [ '78.3 ] pp. 119 ~ 132。
- 上沼 八郎 「日本統治下における台湾留学生—同化政策と留学生問題の展望—」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流, [ '78.3 ] pp. 133 ~ 158。
- 渡部 学 「李朝末期の『在外習業』尹致臭のばあい」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流, [ '78.3 ] pp. 159 ~ 170。
- 小林 文男 「戦後台湾の海外留学」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流, [ '78.3 ] pp. 171 ~ 186。
- 村田 翼夫 「戦前における日・タイ間の人的交流—タイ人の日本留学を中心として—」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流, [ '78.3 ] pp. 187 ~ 214。

## 留 学 生 一 般

- 国立教育研究所 「留学生教育の実態と問題—第一次調査報告—」『国立教育研究所紀要』別冊, 昭和36年。
- 文部省大学学術局留学生課 『留学生担当者研修会報告書』, 45年度(118 p.), 46年度(84 p.), 47年度(98 p.), 48年度(127 p.), 49年度(93 p.), 50年度(119 p.), 51年度(102 p.)。
- 日本国際教育協会 『15周年』, [ '72.11 ] 215 p.  
〔内容〕 日本国際教育協会のあゆみ, 日本留学生制度史留学生の派遣と受け入れの歴史, 国際教育交流, 特に留学生を中心とした諸問題と展望
- 亜細亜大学・日本経済短期大学, 留学生センター編 『留学生のための専門用語解説集』, 昭和51年。

○

- 柴田小三郎 「海外留学生」『学術月報』7—5 [ '54 ] pp. 16 ~ 17。
- 大学学術局庶務課・調査局国際文化課 「外国への留学について」『大学資料』5 [ '57.2 ] pp. 22 ~ 25。
- 今村 茂男 「在米日本人留学生の現実—アルバイト事件も偶然ではない」『朝日ジャーナル』7—27 [ '65.7 ] pp. 88 ~ 92。
- 永井 道雄 「留学生教育をめぐる問題点」『文部時報』1055 [ '65.8 ] pp. 43 ~ 49。
- 佐々木現順 「欧米でみた日本人留学生」『仏教学セミナー』5 [ '67.5 ] pp. 47 ~ 54。
- 資 料 「最近五ヶ年私費生入国許可状況」『月刊アジアの友』54 [ '68.4 ] pp. 18 ~ 21。
- 山口 昌男 「瓢箪と学生—学生のなかの南北問題」『展望』116 [ '68.8 ] pp. 53 ~ 63。
- 鈴木 進 「日本人留学生の学力—アメリカ留学生を中心として(学力・特集)」『厚生補導』56 [ '71.1 ] pp. 26 ~ 31。
- 解 説 「留学生交流の現状と問題点」『時の動き—政府の窓—』375 [ '71.5 ] pp. 24 ~ 33。

- 安江 国浩 「留学生と日本人学生との交流 研究会報告」『外国人留学生問題研究会・会報』10〔'71.5〕pp. 1～5。
- 松本 尚家 「留学生教育の現代的意義」『外国人留学生問題研究会・会報』11〔'71.10〕pp. 1～3。
- 植木 浩 「世界留学生交流の構造と日本の位置」『Cosmos』1〔'72.3〕pp. 19～30。
- 小川 芳男 「留学生問題雑感」『厚生補導』76〔'72.9〕pp. 57～62。
- 日本国際教育協会 『国際教育交流，特に留学生を中心とした諸問題と展望』〔'72.11〕。
- 木田 宏 「国際交流の現状と課題(1)ー留学生について」『大学資料』45〔'73.1〕pp. 1～11。
- 植木 浩 「世界の中の日本の留学生交流」『文部時報』1148〔'73.1〕pp. 63～69。
- 田中 栄一 「留学生問題に関するアンケート調査」『IDE』139〔'73.7-8〕pp. 42～50。
- 千葉 晰子・衛藤和子・宮山平八郎 「外国人留学生における学業適応の諸問題ー国費外国人留学生，全国調査からー」『コスモス』3〔'74.3〕pp. 2～11。
- 室 真理子 「異文化間コミュニケーションと留学生」『外国人留学生問題研究会・会報』16〔'74.8〕pp. 5～6。
- 日本国際教育協会学生相談室 「調査報告：留学生の適応の諸問題ー私費および国費外国人留学生に対する全国調査からー」『コスモス』4〔'75.10〕pp. 27～49。
- 神戸日本国際学生協会，神戸支部甲南ランチ 「海外留学生を考えるー中間報告ー」『The Campus』9〔'75.11〕。
- 山本 襄治 「留学生雑感」『外国人留学生問題研究会・会報』19〔'75.12〕pp. 2～4。
- 窪田 富男 「留学生はお客様か学生かー日本語能力に関連してー」『外国人留学生問題研究会・会報』20〔'76.6〕pp. 2～3。
- 丸山圭介・原田禎夫・関根俊郎(座談会) 「最近の留学生ブームに思う一何を学ぶのか」『音楽芸術』34-10〔'76.10〕pp. 35～41。
- 佐久間 稔 「限りなく不可解な“日本人留外生”」『中央公論』91-10〔'76.10〕pp. 288～295。
- 宮山平八郎 「日系外国人留学生の意識調査とごあいさつ」『外国人留学生問題研究会・会報』21〔'76.11〕pp. 2～4。
- 水谷 昭夫 「国際交流における留学生をめぐるいくつかの問題」『大学時報』131〔'76.11〕pp. 24～29。
- 中川 秀恭 「留学生か 外国人学生か」『外国人留学生問題研究会・会報』21〔'76.11〕pp. 1～2。
- 赤池 豊 「とうきゅう外来留学生奨学財団の設立」『外国人留学生問題研究会・会報』21〔'76.11〕pp. 4～5。
- 木村 和久 「政府，民間ともあまりにもお粗末ー日本の留学生送り出し体制(海外留学生ー各国の受入れ体制と実情ー6完ー)」『世界週報』57-50〔'76.12〕pp. 44～49。
- 岩男寿美子・萩原滋 「在日留学生の対日イメージー欧米系留学生とアジア系留学生の比較」『年報社会心理学』18〔'77〕pp. 129～147。
- 関野 辰夫 「留学生の周辺」『東海大学紀要』7 学生生活研究所〔'77〕pp. 79～89。
- 川野 重任 「留学生問題あれこれ・特集留学生」『IDE』186〔'78.1-2〕pp. 25～30。
- 川野 重任 「留学生用の教育用語」『外国人留学生問題研究会・会報』23〔'78.6〕pp. 1～2。
- 特集・留学生交流の推進 『文部時報』1215〔'78.8〕pp. 4～63。



- 教育文化交流の将来—オーストラリアを訪問して(木田宏) pp. 4~12。  
 日本に留学して(座談会 Alice Yoko Oku 他), pp. 13~24。  
 日本人にとっての留学生問題(鳥羽欽一郎) pp. 25~29。  
 教育交流の諸問題(中島章夫) pp. 30~35。  
 私費留学生に対する学習奨励支給制度の創設にあたって(川野重任) pp. 30~40。  
 国際バカロレアについて—将来の発展と機構に関する政府間会議に出席して(大塚喬清) pp. 41~44。  
 留学生施策の現状について(文部省学術国際局ユネスコ国際部留学生課) pp. 45~54。  
 駒場留学生会館を訪問して(現地ルポ)(孫福弘) pp. 55~61。  
 ASCOJAの結成(文部省学術国際局ユネスコ国際部留学生課) pp. 62~63。  
 馬越 徹 「留学生問題」『大学研究ノート』32〔'78.8〕pp. 73~78。  
 村井 資長 「留学生問題を考える・特集大学と国際交流」『早稲田フォーラム』23〔'78.11〕pp. 1~11。  
 光田 明正 「留学生交流の現状と問題点」『ジュリスト』689〔'79.5.1〕pp. 56~63。  
 和田 昌親 「私は就職したい—さまよえる海外学卒者たち」『望星』10—8〔'79.8〕pp. 96~103。

## 留 学 生 の 受 入 れ

- 文部省大学学術局留学生課 『文部省奨学金留学生制度の概要』(Outline of the Mombusho Scholarship Programme), 昭和41年1月, 32p.  
 文部省調査局留学課 『昭和40年度アジア教育事情等視察調査報告書』, 昭和41年4月, 92p.  
 文部省大学学術局留学生課 『昭和41年度文部省留学生現地試験立合』(教育事情等調査報告書), 昭和42年7月, 147p.  
 国立教育研究所 『留学生教育の実態と問題, 第一次調査報告』, 1961。  
 文部省大学学術局留学生課 『昭和42年度文部省留学生現地試験立合』(教育事情等調査報告書), 1968, 96p.  
 日本国際教育協会 『国費外国人留学生帰国者名簿』(List of Former Japanese Government Foreign Scholars), 昭和45年度版, 111p.  
 文部省留学生課 『わが国の留学生制度の概要』(受入れおよび派遣), 昭和48年, 59p.  
 菊池 靖 「留学生の受入れと国際交流」東海大学学生生活研究所編『大学の理念と実践—その体験的アプローチ』, 東海大学出版会, 1973, pp. 38~45。  
 文部省留学生課 『我が国の留学生制度の概要—受け入れ及び派遣—』, 昭和49年度, 1974, 22p.  
 東京YWCA留学生問題を考える会 『留学生は訴える—アンケート調査報告書』, '72.9~'73.2, 1974, 168p.  
 日本国際教育協会 『私費外国人留学生のための大学入学案内』, 昭和51年度版, 1975, 123p.  
 東京YWCA留学生問題を考える会大学調査グループ 『留学生の受入れは何のためか—大学における受け入れの現状報告書』, 1976, 142p. 附 52p.  
 日本国際教育協会 『私費外国人留学生のための大学入学案内』, 昭和52年度版, 1976, 111p.

- 日本国際教育協会 『昭和52年度，国費外国人留学生帰国者名簿』，221 p.
- 文部省留学生課 『我が国の留学生制度の概要—受入れ及び派遣』，昭和52年度，1977，24 p.
- 東京YWCA「留学生の母親」委員会 『留学生と私達の歩み—留学生の母親運動15年の記録』，昭和52年6月。
- 日本国際教育協会 『私費外国人留学生のための大学・短期大学入学案内』，昭和53年度版，（附録・私費外国人留学生統一試験の概要），〔'77.12〕，227 p.
- 文部省留学生課 『我が国の留学生制度の概要—受け入れ及び派遣』，昭和53年度，1978.25 p.
- 日本国際教育協会編 “Life and Study in Japan for Japanese Government (Monbusho) Scholarship Students 1978”，昭和53年1月，107 p. 1971(146p.)，72(156p.)，73(169p.)，74(131p.)，75(121p.)，76(107p.)，77(107p.)，昭和41年9月(92p.)。
- 日本国際教育協会 『私費外国人留学生のための大学入学案内』（国・公立大学編），昭和54年度版，〔'78.9〕94 p.
- 文部省大学学術局 『国費外国人留学生制度の概要』，1967年版(31p.)，1968年版(33p.)，1969年版(27p.)，1970年版(30p.)，1971年版(30p.)，1972年版(39p.)

○

- 柴田小三郎 「国費外国人留学生制度」『文部時報』931〔'55〕pp.34～38。
- 春山順之輔 「外国人留学生教育上の問題」『文部時報』930〔'55〕pp.34～37。
- 文部省大学学術局大学課 「外国人留学生について」『大学資料』3〔'56.6〕pp.35～38。
- 文部省留学生課 「留学生と研修員について」『大学資料』20〔'66〕pp.53～55。
- 加藤 史雄 「外国人留学生受入れの諸問題について」『厚生補導』5〔'66.10〕pp.18～31。
- アジアの友編集部 「医療保障の現状と方策（留学生問題を考える2）」『月刊アジアの友』41〔'67.2〕pp.2～10。
- アジアの友編集部 「進学をめぐる諸問題（留学生問題を考える3）」『月刊アジアの友』43〔'67.4〕pp.4～15。
- 藤田 雄三 「在日ベトナム留学生の悩み—無原則な受け入れ体制かひきおこす“事件”」『朝日ジャーナル』9—21〔'67.5〕pp.87～89。
- アジアの友編集部 「身分保障について（留学生問題を考える4）」『月刊アジアの友』44〔'67.6〕pp.4～15。
- 田中 宏 「二つの憤死—明治の留学生事件から」『月刊アジアの友』44〔'67.6〕pp.17～21。
- 第4回留学生問題懇談会 「身分保障へ制度化を急げ」『月刊アジアの友』45〔'67.7〕pp.9～12。
- 田中 宏 「留学生問題・アメリカと日本—八王子研修会ノート」『月刊アジアの友』47〔'67.9〕pp.16～21。
- アジアの友編集部 「留学生との交流の事例（留学生問題を考える6）」『月刊アジアの友』50〔'67.12〕pp.4～13。
- 吉川 孔敏 「外国人留学生をめぐる諸問題」『厚生補導』19〔'67.12〕pp.2～14。
- 松本 尚家 「留学生の教育補導の諸問題」『厚生補導』19〔'67.12〕pp.15～24。
- 宮内 盈義 「昭和42年度外国人留学生担当者研修会の概要」『厚生補導』19〔'67.12〕pp.25～30。
- 京都大学他 「大学における留学生指導の実例」『厚生補導』19〔'67.12〕pp.31～46。
- 汲川 六郎 「入管行政に対する留学生のための意見」『外国人留学生問題研究会・会報』4〔'69.5〕pp.1～3。

- 田中 宏 「在日外国人の処遇と留学生問題」『外国人留学生問題研究会・会報』4〔'69.5〕pp.3～5。
- 安江 国浩 「外国人留学生のためのオリエンテーション」『外国人留学生問題研究会・会報』5〔'69.8〕pp.1～5。
- 汲川 六郎 「新しい理念と新しい施策—留学生受入れの基本理念は何か—」『外国人留学生問題研究会・会報』7〔'70.3〕pp.1～7。
- 永井 道雄 「反抗する留学生たち」『朝日アジアレビュー』1—4〔'70.4〕pp.50～55。
- 文部省大学学術局留学生課 「留学生教育の拡充について」『大学資料』35〔'70.6〕pp.64～65。
- 山代 昌希 「留学生教育・補導についての一考察『地区別研究会』をふりかえって」『外国人留学生問題研究会・会報』9〔'70.11〕pp.2～4。
- 文部省大学学術局留学生課 「留学生教育の拡充について」『大学資料』39〔'71.9〕pp.13～15。
- 末永 節三 「留学生の入国から帰国まで」『外国人留学生問題研究会・会報』11〔'71.10〕pp.5～11。
- 留学生の交流について 『大学資料』43—44〔'72〕pp.15～17。
- 山本 襄治 「外国人学生受け入れの問題点」『IDE』123〔'72.1〕pp.47～50。
- 千葉晰子・衛藤和子・宮山平八郎 「外国人留学生の諸問題—駒場留学会館在館生のアンケート調査から—」『コスモス』2〔1973.3〕pp.10～20。
- 完田 充弘 「在日留学生の夏休み」『厚生補導』86〔'73.7〕pp.23～26。
- 上尾 龍介 「留学生に対する読書指導」『厚生補導』89〔'73.10〕pp.28～34。
- 文献紹介：児玉嘉之 「外国人留学生の受け入れと教育」『IDE』144〔'74.1〕pp.50～53。
- 千葉晰子・衛藤和子・宮山平八郎 「外国人留学生における学業適応の諸問題—国費外国人留学生全国調査から—」『コスモス』3〔'74.3〕pp.2～11。
- 荻田セキ子 「留学生は何を望むか—あるアンケート調査から—」『世界』340〔'74.3〕pp.253～258。
- 天土 春樹 「外国人留学生問題を考える」『青少年問題』22—8〔'75.8〕pp.21～26。
- 日本国際教育協会・学生相談室 「留学生の適応の諸問題—私費および国費外国人留学生に対する全国調査から—」『コスモス』4〔'75.10〕pp.27～49。
- 菊池 靖 「留学生教育と現状と課題」『望星』〔'76.2〕pp.60～65。
- 沖原 豊 「大学の国際化と留学生の受け入れ(特集外国人留学生)」『厚生補導』124〔'76.10〕pp.18～28。
- 佐々木幸康 「留学生の指導について(特集外国人留学生)」『厚生補導』124〔'76.10〕pp.37～43。
- 幼方 直吉 「留学生受け入れ体制を鋭く分析した書『留学生の受け入れは何のためか』東京YWCA国際部編について」『教育』26—12〔'76.11〕pp.102～105。
- 荻田セキ子 「留学生受け入れは何のためか—ある大学調査から—」『朝日アジアレビュー』7—4〔'76.12〕pp.98～104。
- 岩男寿美子・萩原滋 「在日留学生の対日イメージ—1—第1次調査資料と若干の考察」『新聞研究所年報』8〔'77.3〕pp.9～34。
- 岩男寿美子・萩原滋 「在日留学生の対日イメージ—2—S. D. プロフィールの検討」『新聞研究所年報』9〔'77.10〕pp.27～72。
- 田中 宏 「犠牲強いられる外国人留学生—国際学友会“再建”の本質を問う—」『エコノミスト』

- 55-26 [ '77. 6. 21 ] pp. 52 ~ 57。
- 文部省学術国際局ユネスコ国際部留学生課 「留学生交流の推進について」『大学資料』63 [ '77. 7 ] pp. 16 ~ 18。
- 松井やよい 「東京でつくられる反日感情—国際学友会問題で失ったもの」『世界』382 [ '77. 9 ] pp. 227 ~ 232。
- 土屋 圭造 「留学生教育・農業開発の問題点—海外学術事情」『学術月報』30-5 [ '77. 10 ] pp. 63 ~ 66。
- 光田 明正 「留学生受け入れの現状と問題点(特集留学生)」『IDE』186 [ '78. 1-2 ] pp. 31 ~ 39。
- 岩男寿美子・萩原滋 「在日留学生の対日イメージ—3—滞日期間に伴う変化」『新聞研究所年報』10 [ '78. 2 ] pp. 15 ~ 29。
- 文部省留学生課 「私費留学生施策の拡充」『外国人留学生問題研究会・会報』23 [ '78. 6 ] pp. 2 ~ 3。
- 藤田 幸男 「留学生教育—その問題点と提言」『大学時報』141 [ '78. 7 ] pp. 56 ~ 59。
- 岩男寿美子・萩原滋 「在日留学生の対日イメージ—4—ケース・スタディ」『新聞研究所年報』11 [ '78. 10 ] pp. 17 ~ 29。
- 萩田セキ子 「共通一次に伴う留学生の大学入試」『アジアの友』, [ '78. 10. 11 ]
- 市川 孝正 「外国人留学生教育の現状と課題 —教育現場の経験から—(特集・大学と国際交流)」『早稲田フォーラム』23 [ '78. 11 ] pp. 51 ~ 61。
- 柴田 俊造 「再検討が望まれる留学生受け入れ—第2回アセアン諸国留学者会議に出席して—」『望星』9-11 [ '78. 11 ] pp. 36 ~ 42。
- 竹内 正 「外国より医学留学生の問題について—特に日本指向の理由等を含めて」『大学基準協会会報』37 [ '78. 12 ] pp. 82 ~ 90。
- 綾部恒雄・小町沢正喜 「在日留学生の文化接触に関する文化人類学的研究」『九州大学教育学部附属比較教育文化施設紀要』30, 1979, pp. 33 ~ 84。

### アジア人留学生／アジア人の日本留学

- 日華学会 『日華學會二十年史』, 1939, 175 p. 付: 東亜学校学生諸表(自大正14年・至昭和13年)。
- 日華学会 『第十八回中華民國留学生名簿』, 昭和十九年四月現在, 1944, 58 p.
- 拓殖大学調査課 『東南アジア諸国留学生教育の現状—主として問題点の所在について』, 1961。
- さねとう・けいしゅう 『中国人・日本留学史』, くろしお出版, 1970, 603 p.
- 弘中 和彦 『発展途上国における留学の問題—インドをケースとして』(アジア経済研究所・研究参考資料154), 1970. 103 p.
- 永井道雄・原芳男・田中宏 『アジア留学生と日本』, 日本放送出版協会, NHKブックス, 1973, 306 p.
- 国立教育研究所アジア人留学生研究会 『アジア人留学生に関する総合研究—中間報告』, 昭和44年2月, 77 p.
- 川野 重任編 『アジア諸国からの留学と技術研修』(アジア経済研究所・研究参考資料233), 1975, 208 p.
- 川野 重任編 『東南アジア留学生の日本選択』(アジア経済研究所・研究参考資料250),



- ファン・ヴァン・グエン他 「日本文部省に訴える」『中央公論』76—12〔'61〕pp. 55～63。
- 宇佐美 承 「文部大臣を訴えた“マラヤ”留学生—チョア君は日本の外交と大学の自治について考えさせた」『朝日ジャーナル』7—12〔'65.3〕pp. 22～25。
- 島田 祥生 「アジア・アフリカ学生北海道修学旅行」『厚生補導』5〔'66.10〕pp. 32～40。
- 薄井 歳和 「ラオスとベトナム留学生のフランス語能力について」『千葉大学留学生部研究報告』2〔'67.3〕pp. 23～29。
- ドクター・アンチョウ 「八年の留学を終えて」『月刊アジアの友』43〔'67.4〕pp. 16～21。
- ラオ, C・B・J・ 「日本の近代化と私たち」『月刊アジアの友』45〔'67.7〕pp. 6～8。
- 千代田博明 「シンガポールで考えたこと—帰国留学生を訪ねて」『月刊アジアの友』46〔'67.8〕pp. 4～9。
- 佐藤 栄作 「佐藤総理, 留学生問題を語る—“アジア外交と日本”」(7月28日テレビ談話)『月刊アジアの友』46〔'67.8〕pp. 10～13。
- アジアの友編集部 「帰国で完結しない“留学”留学生問題を考える5」『月刊アジアの友』47〔'67.9〕pp. 4～12。
- 調査資料 「シンガポールにおける帰国留学生の現況」『月刊アジアの友』50〔'67.12〕pp. 16～18。
- 「もてない日本留学生(タイ)—資質低下の私費留学生, 日本の大学批判と実態」『時事通信内外教育版』1923〔'68.1.9〕pp. 13～14。
- 高 乗 沢 「日本時代は天国だったでしょうか—明治百年論文へのお手紙に答えて」『月刊アジアの友』53〔'68.3〕pp. 12～16。
- 森口 兼二 「留学先としての日本・講演」『月刊アジアの友』59〔'68.9〕pp. 4～11。
- 劉 佳 欽 「私の日本における六十九日間の留学生活」『月刊アジアの友』60〔'68.10〕pp. 4～10。
- 田 大植他 「日本の大学に留学して」『文部時報』1097〔'68.12〕pp. 10～28。
- 森口 兼二 「留学先としての日本」『京都大学教育学部紀要』15〔'69.3〕pp. 163～179。
- 工藤 正司 「在日アジア留学生の苦悩—問われる日本の援助姿勢」『エコノミスト』48—38〔'70.9〕pp. 62～67。
- 「特集・アジア留学生と日本」『朝日アジアレビュー』1—4〔'70.12 冬季号〕  
〔内容〕 留学生たちのこころ(穂積五一) pp. 26～33。在日アジア系留学生の身分と意識(幼方直吉) pp. 34～41。アジア留日学生年史(田中宏) pp. 42～49。反抗する留学生たち(永井道雄) pp. 50～55。
- 原 芳男 「日本留学生の現地追跡レポート—東南アジアをまわって」『朝日アジアレビュー』2—2〔'71.6〕pp. 108～117。
- 渡部 宗助 「アジア留学生と日本の大学・高等教育—明治末期の山口高商の事例より」『大学論集』1〔'73.3〕pp. 63～74。
- 渡部 宗助 「アジア留学生と日本の大学・高等教育—日本植民地下の台湾留学生の場合」『大学論集』2〔'74.3〕pp. 89～104。
- 黄 燕 清 「留学生の学習意識構造の変化について—とくに東南アジア諸国の留学生を対象として」『東海大学紀要・学生生活研究所』5〔'75.7〕pp. 133～138。
- エイティン 「在日留学生からみた日本の印象」『厚生補導』110〔'75.8〕pp. 44～45。
- ポウルペダーセン 「アジアの大学生の伝統観と中国観—アジアの学生たちの意識と行動を考える

- 」『自由』17—8〔'75.8〕pp. 121～129。
- 斎藤 秋男 「中国人留学史における中米関係“アジア留学生に関する総合研究”の一部」『専修商学論集』19〔'75.8〕pp. 193～216。
- 阿部洋・稲葉継雄 「日本におけるアジア人留学生の意識・特集大学と国際化」『IDE』163〔'75.11〕pp. 19～26。
- 弘中 和彦 「インド人の海外留学」『国立教育研究所紀要』89〔'76〕pp. 43～76。
- 阿部洋・稲葉継雄 「アジア人留学生の日本留学観—“アジア留生意識調査”の分析を通してみた・付録含」『国立教育研究所紀要』89〔'76〕pp. 149～252。
- 村田 翼夫 「わが国の四年制大学におけるアジア人留学生受け入れの現状」『国立教育研究所紀要』89〔'76〕pp. 97～148。
- 宮山平八郎・山代昌希 「戦後日本におけるアジア人留学生受け入れ」『国立教育研究所紀要』89〔'76〕pp. 78～96。
- 国立教育研究所 「アジア人の日本留学“アジア人留学生に関する総合研究”報告書」『国立教育研究所紀要』89,〔'76〕252 p. 所〔'76〕252 p.
- 馬越 徹 「“解放”後の韓国における海外留学」『国立教育研究所紀要』89〔'76〕pp. 5～26。
- 小林 文男 「現代中国の海外留学—1950年代・第1次5ヶ年計画期における展開を中心に」『国立教育研究所紀要』89〔'76〕pp. 27～42。
- 大迫俊夫・渡辺文夫・ビビアン・アルバラシン 「アジア人留学生の意識調査〈特集〉留学生から学ぶもの—日本での体験と問題点」『朝日アジアレビュー』7—1〔'76.3〕pp. 68～89。
- ピパタナクン, パイシットほか 「東南アジア日本留学者の座談会, 特集外国人留学生」『厚生補導』124〔'76.10〕pp. 2～17。
- 野村 正吾 「東南アジアからの告発—ある留学生がもらったもの」『京都教育大学教育研究所所報』23〔'77.3〕pp. 160～165。
- 施 昭雄・高 文義 「人的資源開発と台湾の留学生問題, 含資料, 中国社会構造の研究—10—」『福岡大学研究所報』28〔'77.3〕pp. 35～56。
- 阿部洋・馬越徹・稲葉継雄 「日本留学帰国者の社会的位置—韓国の場合」『日本比較教育学会紀要』3〔'77.3〕pp. 53～62。
- 馬越 徹 「日本留学の評価—韓国人帰国留学生調査から・特集留学生」『IDE』186〔'78.1, 2〕pp. 58～65。
- 阿部洋・清水慶秀・馬越徹・黒岩晰子・稲葉継雄 「日本留学帰国者の意識とその活動—韓国におけるアンケート調査の分析結果」『国立教育研究所紀要』94, アジアにおける教育交流,〔'78.3〕pp. 263～328。
- 斎藤 秋男 「日本留学・中国人彭湃の生と死—共同研究〈アジア人の日本留学史〉の一部」『専修人文論集』21〔'78.5〕pp. 37～71。
- 「特集 国際協力IV・アジアからの留学生」『技術と経済』136〔'78.7〕  
 アジアからの留学生(栖原暁) pp. 6～23。わが国の留学生受け入れ制度に望む(荻田セキ子) pp. 24～38。企業と留学生・研修生(田中宏) pp. 39～54。  
 アジアへの留学体験から(中村尚司) pp. 55～70。留学生・外国人学生・学生(細川哲士) pp. 71～86。「座談会」大学生活,そして将来のことソムボン・アグドゥーラー(田中宏) pp. 87～113。「資料一」国際学友会問題への留学生の見解 pp. 114～120。「資料二」アジア留日学生史年表・戦後編, pp. 121～133。
- 高木 桂蔵 「共産中国留学生の本質・特集・社会主義国からの留学生」『大学世界』2—2,

〔'79.2〕pp. 30～38。

小林 文男 「留学生派遣再開の意図と背景・特集・社会主義国からの留学生」『大学世界』2-2〔'79.2〕pp. 19～29。

「資料・留学生派遣に対する中国の論調・特集・社会主義国からの留学生」『大学世界』2-2〔'79.2〕pp. 49～53。

## 日 本 語 教 育

「アジアへの日本語教師派遣状況—資料」『月刊アジアの友』53〔'68.3〕pp. 17～21。

杉本つとむ 「台湾における日本語教育の方法と歴史」『武蔵野女子大学紀要』4〔'69.3〕pp. 93～114。

鈴木 忍 「留学生に対する日本語教育」『言語教育学叢書第1期第6巻』文化評論出版, 1969, pp. 163～167。

鐘ヶ江信光 「日本語研究について」『外国人留学生問題研究会・会報』17〔'74.11〕pp. 1。

外山滋比古 「日本語国際化の条件」『国際交流』5〔'75.4春季号〕pp. 19～29。

田中 宏 「日本語をつたえる視点—語学教育におけるく八・一五—・特集語学教育とアジア」『朝日アジアレビュー』23〔'75.9〕pp. 70～75。

小堀 郁夫 「日本の大学を目指して—国際学友会日本語学校・特集外国人留学生」『厚生補導』124〔'76.10〕pp. 29～36。

武部 良明 「日本語教育の問題点・特集大学における外国語教育」『早稲田フォーラム』15〔'76.11〕pp. 47～55。

加藤 彰彦 「日本語教育の現状—日本語教員になるために」『実践国文学』11〔'77.3〕pp. 9～14。

木村 宗男 「ニュージーランドの大学と日本語教育・外国大学における日本研究の実態⑥」『大学時報』133〔'77.3〕pp. 40～43。

奥田 邦男 「留学生の日本語教育について」『厚生補導』133〔'77.7〕pp. 45～55。

木村宗男ほか 「日本語教育の環境—外国人に日本語を教えるために・座談会」『国際交流』15〔'77.11.秋季号〕pp. 50～58。

東京外国語大学外国語学部附属日本語学校 「外国人留学生の学習困難点から見た日本語教育に関する研究—動詞に関する誤用例(1)—」, 53年3月, 58 p.

藤井 健夫 「米国諸大学における日本語教育実態調査報告」『関西外国語大学研究論集』28〔'78.7〕pp. 247～263。

玉村 文郎 「東南アジア諸国における日本語教育」『文部時報』〔'78.11〕pp. 40～46。

野元 菊雄 「簡約日本語のすすめく日本語が世界語になるために—・特集海外の日本語教育」『言語』8-3〔'79.3〕pp. 60～65。

草 薙 裕 「アジア諸国の大学における日本語教育・特集海外の日本語教育」『言語』8-3〔'79.3〕pp. 50～58。

大原 信一 「中国—急速に進む日本語学習・特集海外の日本語教育」『言語』8-3〔'79.3〕pp. 46～49。

奥田敬一郎 「韓国—盛況の蔭にある基本的問題・特集海外の日本語教育」『言語』8-3〔'79.3〕pp. 42～45。

- 柳 富子 「ソ連—日本学の一環として・特集海外の日本語教育」『言語』8—3〔'79.3〕 pp. 38～41。
- 池田 修 「アラブ諸国—アラブで唯一の日本学科（カイロ大学）・特集海外の日本学科」『言語』8—3〔'79.3〕 pp. 34～37。
- 長尾 勇 「ブラジル—日本学校とサンパウロ大学日本講座・特集海外の日本語教育」『言語』8—3〔'79.3〕 pp. 30～33。
- 野口 玲子 「オーストラリア—量から質の時代へ・特集海外の日本語教育」『言語』8—3〔'79.3〕 pp. 24～28。
- 宮崎 茂子 「ニュージーランド—まず日本文化から・特集海外の日本語教育」『言語』8—3〔'79.3〕 pp. 20～23。
- 曾我 松男 「カナダ—年々増加する学生数・特集海外の日本語教育」『言語』8—3〔'79.3〕 pp. 16～19。
- 中田 清一 「アメリカ—飛躍的な発展・特集海外の日本語教育」『言語』8—3〔'79.3〕 pp. 10～14。
- 増田 純男 「国際化時代の日本語・特集海外の日本語教育」『言語』8—3〔'79.3〕 pp. 2～9。

## 海外事情

- ロジャーズ, フランシスM, 斉藤正二訳 「アメリカの大学と国際学生の交換に就いて」『大学教育の理念』第十章, 緑地社, 1958, pp. 156～168。
- マッコネル, ジョンW, 沖原豊他訳 「アメリカに学ぶ留学生」『アメリカの大学十八講』, 葵書房, 1967, pp. 115～136。
- フォード, ロバート. S. 「外国人留学生」(ウォルターズ, E. 編『これからの大学院』), 東京大学出版会, 1969, pp. 203～224。
- 「教育科学アカデミーの国際交流」1973 『各国の教育研究体制に関する資料集』 国立教育研究所, 1977, pp. 59～69。

○

- 長谷川善一 「フランスの対外人物交流事業—学生・教員・研究者等を中心として」『学術月報』22—1〔'69.4〕 pp. 34～41。
- 宮山平八郎 「ベトナムの大学と国際教育協力」『学術月報』22—12〔'70.3〕 pp. 42～50。
- 今井日出夫 「アメリカにおける外国人留学生受入れ事情, 調査報告昭和48年11月—12月」『厚生補導』93〔'74.3〕 pp. 52～87。
- エーステルグレン, ベルティル・中嶋博訳 「スウェーデンにおける大学の国際化の促進について 特集・大学の国際的使命」『早稲田フォーラム』8〔'75.3〕 pp. 56～61。
- 岡野加穂留 「海外交流の一つのケース—ジョンズ・ホプキンス大学国際高級研究大学院の場合」『学術国際交流参考資料集』7, 明治大学学術国際交流委員会, 1976, pp. 32。
- 「海外留学生 各国の受け入れ体制と実情, —1—アジア編」『世界週報』, 57—45〔'76.11.16〕 pp. 48～59。韓国, 語学, 文学, 歴史の研究が中心(森田八郎), pp. 48～55。中国, 外国人留学生に語学専門学院(人見憲太郎), pp. 55～57。香港中国, アジア研究のメッカ(篠田憲明), pp. 57～59。



- 「海外留学生 各国の受け入れ体制と実情，－2－アジア編」『世界週報』，57－46〔'76. 11. 23〕 pp. 66～73。シンガポール，北京語習得目的で南洋大学へ（金重紘） pp. 66～68。フィリピン，日本の大学と学生交流（神田四郎） pp. 69～71。豪州，卒業できるのは半分程度（東田幸夫） pp. 71～73。
- 「海外留学生 各国の受け入れ体制と実情，－3－欧州編」『世界週報』57－47〔'76. 11. 30〕 pp. 62～69。イギリス，入るのも出るのも難しい（池田昭一） pp. 62～64。フランス，成功と墮落が背中合わせ（山本一郎） pp. 64～67。西ドイツ，語学だけの短期“遊学”が多い（駒込雄治） pp. 67～69。
- 「海外留学生 各国の受け入れ体制と実情，－4－欧州編」『世界週報』57－48〔'76. 12. 7〕 pp. 70～77。スイス，歓迎されない“苦学”生（寺崎進） pp. 70～73。ベルギー，ルーバン大卒業生は2人だけ（石川謙次郎） pp. 73～75。ソ連，モスクワ大学，日本4大学と交流（斎藤良和） pp. 75～77。
- 「海外留学生 各国の受け入れ体制と実情，－5－米州編」『世界週報』57－49〔'76. 12. 14〕 pp. 62～69。ワシントン，世界の学生に門戸を開放（伝喜之） pp. 62～64。サンフランシスコ，日本人留学生は増加の一途（渡井博巳） pp. 65～67。ロサンゼルス，卒業できるのは2%程度（後藤英彦） pp. 67～69。
- 「海外留学生 各国の受け入れ体制と実情，－6完－米州編」『世界週報』57－50〔'76. 12. 21〕 ブラジル，私費留学生が数人いるだけ（早川清） pp. 39～41。チリ，インフレで学生生活は苦しい（樋口満） pp. 41～44。政府，民間ともあまりにもお粗末－日本の留学生送り出し体制（木村和久） pp. 44～49。
- ベアワルド，ハンス 「カルフォルニア大学の海外教育事業・講演」『学術国際交流参考資料集 21』明治大学学術国際交流委員会，1977， pp. 3～10。
- 「カリフォルニア大学の海外教育事業：学事計画・案・1976～1981」『学術国際交流参考資料集 21』明治大学学術国際交流委員会，1977， pp. 11～19。
- 川野辺 敏 「外国人留学生を優遇するソ連・ソビエト高等教育の近況」『IDE』178〔'77. 4〕 pp. 50～53。
- 杉山明男・土井捷三 「ソ連における留学生制度の諸問題 特集・社会主義国からの留学生」『大学世界』2－2〔'79. 2〕 pp. 42～48。


## 大学研究ノート・バックナンバー

- 第 1 号(1971. 8) サセックス大学のカリキュラム：自然科学系ハンドブック 1966-67より  
 …………… 大学問題調査室〔編訳〕
- 第 2 号(1971. 9) ドイツの大学における Institute 数及び教授数に関する集計  
 …………… 近藤春生
- 第 3 号(1971.10) 高等教育に関する主要外国雑誌目録 …………… 岩村 聡〔編〕
- 第 4 号(1972. 7) 欧米の医学カリキュラム …………… 杉原芳夫〔編訳〕
- 第 5 号(1972. 8) アメリカ合衆国の主要大学に関する基本資料  
 …………… 関 正夫・川上昭吾〔編訳〕
- 第 6 号(1973. 2) サセックス大学のカリキュラム：人文・社会系ハンドブック 1966-67より  
 …………… 大学教育研究センター〔編訳〕
- 第 7 号(1973. 3) 諸大学学寮規程・規則集(1) …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 8 号(1973. 8) ドイツ大学改革と学生生活の現況 マールブルク大学を中心として  
 …………… 千代田 寛・阪口修平
- 第 9 号(1973. 9) 広島大学医学部紛争における医局・講座，大学院および学位制度問題資料  
 …………… 杉原芳夫〔編〕
- 第 10 号(1974. 1) 理学部生物学科の調査—カリキュラムを中心に …… 川上昭吾
- 第 11 号(1974. 2) 大学院・研究体制に関する文献目録 …………… 喜多村和之〔編〕
- 第 12 号(1974. 2) 大学院・学位に関する規程集 …………… 喜多村和之〔編〕
- 第 13 号(1974. 3) アメリカ工業教育協会報告書：工学系学生のための教養教育  
 …………… 関 正夫〔編訳〕
- 第 14 号(1974. 3) 諸大学学寮規程・規則集(2) …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 15 号(1974. 6) 農学系大学・学部新入学生の入学動機と農業に関する意識の調査・研究  
 農業高校生との進路選択と農業に関する意識の調査研究  
 —普通高校生との比較— …………… 山谷洋二
- 第 16 号(1974. 9) カリフォルニア大学の農学系カリキュラム …………… 山谷洋二〔編訳〕
- 第 17 号(1975. 1) ヨーロッパの学生宿舎を見て …………… 横尾壮英
- 第 18 号(1975. 2) 学寮の管理運営の法的検討 …… 畑 博行・村上武則
- 第 19 号(1975. 3) 大学院・学位制度に関する資料集 …………… 寺崎昌男〔編〕
- 第 20 号(1975.10) 大学の大衆化をめぐって …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 21 号(1976. 1) 大学英語教育に関するアンケート調査—広島大学における学生の意見—  
 五十嵐 二郎・稲田勝彦・岩村 聡  
 藤本 黎時・湯浅 信之
- 第 22 号(1976. 3) 西ドイツ高等教育改革の青写真 …………… 天野正治
- 第 23 号(1976. 3) 宮城教育大学の教育改革—視察報告— …… 教師教育プロジェクト〔編〕
- 第 24 号(1976. 8) 広島大学学生の宿舎と生活—アンケート調査から—  
 …………… 黒川正流・上里 一郎・岩村 聡
- 第 25 号(1976. 9) 高学歴社会—その現実と将来— …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 26 号(1976.11) 大学の組織・運営に関する総合的研究 …… 組織・運営プロジェクト〔編〕

- 第 27 号 (1977. 1) 教師教育カリキュラムに関する研究 …………… 教師教育プロジェクト〔編〕
- 第 28 号 (1977. 2) 農学系大学・学部新入学生の入学動機と農業に関する意識の調査・研究  
 —その 2 東日本の場合— …………… 山 谷 洋 二
- 第 29 号 (1977. 3) 理科系学生に対する教養課程における自然科学教育に関する調査研究  
 —広島大学一般教育課程における物理学教育に関するアンケート調査から  
 …………… 理科系教育研究プロジェクト  
 (物理グループ)
- 第 30 号 (1977. 6) 日本のアカデミック・プロフェッション  
 —帝国大学における教授集団の形成と講座制— 天 野 郁 夫
- 第 31 号 (1977. 9) 大学における専門教育 …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 32 号 (1978. 8) 大学の国際化—第 6 回 (1977 年度)「研究員集会」の記録—  
 …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 33 号 (1978.10) 諸外国の大学における国際交流—とくにアメリカ合衆国を中心として—  
 …………… 喜多村 和 之・天 野 郁 夫・湯 浅 信 之
- 第 34 号 (1978.11) 教養課程における理科系学生に対する自然科学教育の現状と課題(I)  
 —広島大学の事例を中心として—  
 …………… 高等科学技術教育研究プロジェクト
- 第 35 号 (1978.11) 教養課程における理科系学生に対する自然科学教育の現状と課題(II)  
 —理科系専門教育の立場から—  
 …………… 高等科学技術教育研究プロジェクト
- 第 36 号 (1979. 2) 広島大学医学部と地域社会 …………… 大学と地域社会プロジェクト
- 第 37 号 (1979. 5) 諸外国における一般教育および科学技術教育改革の動向  
 …………… 高等科学技術教育研究プロジェクト
- 第 38 号 (1979. 7) 高等専門学校の現状と課題 …………… 葉柳 正
- 第 39 号 (1979.10) 地域社会と大学 — 第 7 回 (1978 年度)「研究員集会」の記録 —  
 …………… 大学教育研究センター〔編〕
- 第 40 号 (1979.11) 大学と地域社会の相互連関に関する調査研究  
 (I) — 広島大学教員実態調査 — …………… 池 田 秀 男

大学研究ノート 通巻 41 号 1979 年 12 月

発行 広島大学 大学教育研究センター 〒 730  
 広島市東千田町 1 丁目 1-89  
 ☎ (0822) 41-1221 (内線 706)

印刷  ニシキプリント 広島市庚午中 2 丁目 17 番 9 号  
 ☎ (0822) 71-6954

## CONTENTS

### Preface

I. International Exchange .....	5
Internationalization Internationality .....	5
International Exchange in General .....	7
International Exchange with Particular Areas .....	8
International Exchange in Science, Education and Culture .....	12
International Exchange at Universities .....	14
International Exchange of Researchers .....	16
Foreign Teachers .....	16
International Exchange in Education .....	18
International Baccalaureat .....	19
International Exchange of Students .....	19
International University-International Academic City .....	20
The United Nations University .....	20
Individual Universities .....	22
Organizations for International Exchange (Japanese) .....	24
Organizations for International Exchange (Foreign) .....	26
II. Study Abroad .....	27
Study Abroad in General .....	27
History of Study Abroad .....	27
Foreign Students in General .....	30
Acceptance of Foreign Students .....	32
Asian Students Abroad and Asian Students in Japan .....	35
Teaching of Japanese Language .....	38
Overseas Affairs .....	39

# NOTES ON HIGHER EDUCATION

No. 41 (December 1979)

## A Bibliography on Academic International Exchange

R.I.H.E. Research Project Team  
on the Internationalization  
of Higher Education

RESEARCH INSTITUTE FOR HIGHER EDUCATION  
HIROSHIMA UNIVERSITY      Hiroshima, Japan